



関西医科大学 広報

Kansai Medical University Public Relations



建学の精神

本学は、慈仁心鏡、すなわち慈しみ・めぐみ・愛を心の規範として生きる医人を育成することを建学の精神とする。

出会いと別れ——

桜咲き乱れ、新たな門出を祝う



117名の新しい仲間を迎え入れた、平成27年度医学部入学式

CONTENTS

法人： 学長選考結果、就・退任挨拶	P.2	卒後臨床研修センター： 臨床研修医入職式、臨床研修修了式	P.33
大学： 医学部卒業式、教務関係日程、入試結果	P.19	メディア情報： メディア掲載情報	P.34
病院： 循環器救急フォーラム、肝臓病セミナー	P.28	同窓会： 関西医科大学同窓会研究助成	P.35

学長選挙を実施 新学長に、友田幸一教授が就任

2月23日(月)、山下敏夫学長の任期(3期・8年)が平成27年3月末日をもって満了となることに伴い、次期学長を選出する学長選挙が実施されました。その結果、学長に本学耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座友田幸一教授が当選。その後開催された理事会において承認されました。任期は平成27年4月1日から4年(平成31年3月末日まで)です。

※役職は学長選挙実施当時

【友田幸一新学長略歴】

昭和52年3月	関西医科大学医学部卒業
昭和60年6月	筑波大学耳鼻咽喉科学講座講師
昭和62年7月	関西医科大学耳鼻咽喉科学講座講師
平成6年5月	関西医科大学耳鼻咽喉科学講座助教授
平成9年4月	金沢医科大学感覚機能病態学教授
平成20年7月～	関西医科大学耳鼻咽喉科学講座教授
(※平成25年4月から耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座)	
平成24年4月～	学校法人関西医科大学評議員
	関西医科大学副学長



友田新学長

学長就任のご挨拶

学長 友田 幸一

このたび山下敏夫前学長の後任として平成27年4月1日付をもって9代目学長に就任いたしました。学長選出に際しましては理事会、教授会をはじめ、教職員の皆様のご支持、ご支援のお蔭と厚く御礼申し上げます。私は、本学を昭和52年に卒業しました。まだまだ浅学菲才の身ではありますが、本学の伝統を守り、歴代学長・理事長が掲げてこられた理念、施策を踏襲し、さらなる発展のために全力を挙げ努力したいと考えております。

さて関西医科大学は、今年で創立87周年を迎えますが、近年になって大きく変化しました。それは枚方新学舎の完成とともに「全学年が学ぶキャンパス」、「最新の研究施設」、「最先端医療を担う附属病院(本院)」が同じ場所で揃い、私共の長年の夢であった「真の学園」が誕生しました。特に山下理事長・前学長のご功績は大きく、教育、研究、臨床と経営面で大きく変革を遂げ、今も進化しています。その根本には教職員の一人ひとりの努力によってこの大学が成り立っていることを

認識しなければなりません。私は、教学の面から人間性豊かな良医の育成と研究力の向上を主軸に、さらなる発展をめざしたいと考えております。また私立医科大学としての独自性を生かし、柔軟性をもって自由な発想のもとに個性的な大学を創っていきたいと考えております。その構想の一部を紹介します。

(1)教育・研究の質的転換

本学では真の6年一貫教育を目指したカリキュラムの抜本改革を行い、教育の充実を図ってきました。その一つ、低学年の時期から未来の科学者を育てるユニークな「研究医養成コース」が昨年からはスタートしました。本年度、2年生の中から4名の学生がこのコースに登録し、学部講義と並行して研究活動を開始することになり大いに期待しております。また今年度からはICTを応用した新しい学習システムを用いて、「覚えるから考える」教育の実現のために教員と学生の双方向のアクティブラーニングを開始し、主体性を引き出

法 人

す教育に質的転換したいと考えています。研究面では、大学院制度を抜本的に見直し、新しい指導体制のもと、国内外の院生の数の増加を目指したいと思います。さらに特定の研究領域を戦略的に推進する「再生医療コンソーシアム」と「がん関連コンソーシアム」の充実・発展、また臨床研究を推進する目的で設立された“臨床研究支援センター”をより活発化したいと考えています。ここでは臨床医がさまざまなアイデアとテーマで研究プロジェクトを立案し、基礎系の研究施設と有機的な関係を構築できるよう支援を行います。近い将来には“最先端医学研究所(仮称)”の設置が計画されています。

(2) 世界ランキングを目指した グローバル大学の創成

本学には、平成24年度に国際交流センターが設立され、学生、教職員の人的な国際交流が行われていますが、これからはさらに英語力を強化し、世界を舞台に新しい医療技術や研究成果など“関西医大ブランド”の医学界、産業界、社会への発信、また高度医療人育成制度の充実とともに新たに高度研究者育成制度を立ち上げ、グローバルリーダーの人材育成などを担う“グローバル・コア・センター構想”を掲げています。将来、世界ランキングに入る大学に成長することを期待しています。また5年後を目指して国際認証の受審や発展途上国の高等教育支援なども積極的に行っていく計画です。

(3) 予防医療から先制医療へ

これからの新しい医療として、発病前に遺伝子検査やバイオマーカー検索、画像診断などによって診断を行い、予想される病気に対して先に治療を計画し、発病を防止するあるいは遅延させるなどの医療を「先制医療」と言い、すでに始まっています。遺伝子検査で将来乳がんの発症の確立が高く先に乳房切除する例がアメリカで報告され注



木々の成長とともに緑の学園へ

目されました。このように個人に合った予防策をとることが可能になってきました。このような概念に基づいた医療も今後視野に入れ、体制作りをしていく必要があるように感じます。

その他にも多くの提案がありますが、紙面の都合上随時ご紹介していきたいと思えます。

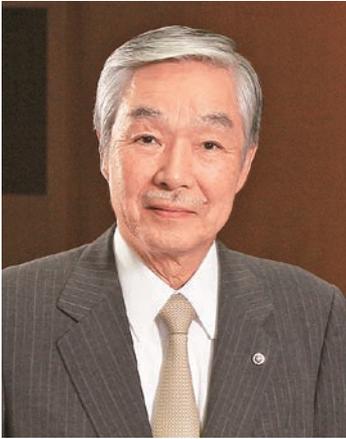
最後に、本年4月からの学校教育法改正に伴う学長のガバナンスの在り方について、私の考えを述べたいと思います。学長は、広い視野、明確な理念、確固たる信念をもって、大学の将来像を明確にし、その実現のためにどうあるべきかを教授会に提示し、その審議を通して大学の進むべき道を方向づけることが必要で、学長の権限というよりは義務として、責任を持って実行することが重要と考えています。

本学が、さらに「学生にとって魅力ある大学」、「教職員にとって働きがいのある職場」、そして皆が「誇りをもって語りあえる大学」になるよう、教授会共々その一翼を担っていきたいと思っております。

どうか皆様からのご助言、ご協力、ご鞭撻の程、よろしくお願い申し上げます。

学長退任のご挨拶

理事長 山下 敏夫



私は本年3月末日をもって、8年間の学長職の任期が満了・退任し、学校法人関西医科大学理事長の職に専任することになりました。8年間の学長職を大過なく、また充実した日々を過ごさせていただきましたことは、ひとえに教職員、学生そして関係の皆様方のご支援とご協力の賜であり、改めて心から感謝申し上げます。この8年間は私自身「関西医大が良くなること」のみを目標、目的として全力で走り続けて参りましたので、あっという間に過ぎた思いです。一方、その間の多くの出来事が走馬燈のように思い出されます。足跡を整理する意味も含めて、この8年間の回顧し、特に印象に残ったことや、将来の期待などについても思いつくままに述べさせていただきます。

平成19年2月、日置前学長の任期中のご逝去に伴い、1月半という短い期間の学長選挙の結果、何の心の準備もないまま同年4月に学長に就任しました。まず当初、素直に感じましたことは(1)教育・研究環境の劣悪さ、(2)教学を含めた大学全体の組織や運営に改善すべき問題が山積していること、(3)教学に密接な関係を持つ法人の財務の危機的状態などでした。これらを確実に、かつスピード感を持って対処しなければ本学は確実に三流の大学になってしまうという強い危機感を持ったことを鮮明に憶えています。

(1) 教育・研究環境の改善

— 新学舎建設・開校

当時、学生生活6年間に3ヶ所もキャンパスを変えることは、学生の利便性に加え、真の6年一貫教育をする上でも大きな問題であり、とくにそのうち3年を過ごす滝井キャンパスの狭隘化、老朽化は顕著で、教育環境の悪さが心配でした。また研究面では、多くの若手医師がいる枚方地区に研究室が皆無という事実は、本学の研究力の低下に致命的と考えました。さらに大学本部のある滝井と本院のある枚方の地理的乖離は大学運営管理上に大きな負担でした。以上の全ては枚方に新学舎を建て、キャンパスと大学を集約させることで解決

します。しかし平成11年に策定された法人大綱方針では新学舎建設は枚方病院完成10年後の平成27年とされていました。その理由は全て財務的な資金不足によりました。私が学長就任当時の法人の財務は年に数10億円の赤字が続き、某大

組織

施設整備企画室 (新学舎)

教育研究基盤整備企画室

財務部募金室

看護学部設置準備室

広報委員会 (総務部広報課)

卒後臨床研修センター内

キャリア形成支援部門

女性医師支援部門

医学教育センター

入試センター

国際交流センター

臨床研究支援センター

病態分子イメージングセンター

シミュレーションセンター

表 1

法 人

学に吸収されるのではという風評さえ飛ぶ状態でした。そこでまず学長としてできる教学面の無駄を省く運動を開始すると共に、三役会を通じて、少しずつ法人の経営にも参画させていただき、収益改善に全力で取り組みました。幸い教職員の団結もあり、何とか財務が上向きになった機会をとらえ、大綱方針を数年前倒しにしての新学舎建設を理事会で認めていただきました。その後は当時の澤田敏建設担当理事との二人三脚で建設業者選び、価格交渉、基本コンセプト策定に始まり、基本設計、アメニティー向上策など全てに自ら係わり、新学舎を確実に完成させました。それだけにこの新学舎建設・開校の事業は私の8年間の学長生活の最大の仕事であり、かつ思い出でもあります。この新学舎完成により、関西医大の全てが変わったことは、皆様ご承知の通りです。このことにより大学にとって「器」も極めて大切だということを再認識しました。

(2) 学長アドホック委員会を中心とした組織改革

「器」もですが、もちろん「中身」はさらに重要です。前述のように学長就任当時は教学を含めた大学の組織や運営には多くの問題が山積しており、また従来の本学の問題の処理スピードは必ずしも早いとは思いませんでした。そこで重要な特に教学に関する学内の諸問題に対して学長主導で、スピード感を持って問題の解決を目指すために「学長アドホック委員会」という組織を新たに作りました。この委員会は職域横断的に委員を選び、学長自ら全ての会に出席し、即断即決するのが狙いです。8年間で委員会数28委員会、延べ

制 度

教育医長制度	大学院
研究医長制度	臨床系社会人コース 臨床研修医社会人コース
高度医療人育成(スーパードクター)制度	
短時間労働正職員制度	診療教授内規
特定診療科希望学生修学支援制度	特命教授内規

表 2

開催数148回に及びました。この委員会で決めた方針を大学の組織や制度に落とし込み、多くの改革を行いました。主として、このアドホック委員会を通して新たに作った組織は表1のごとく5つの室及び会、6つのセンター、2つの部門に及び、本学の全組織の1/3以上を変えたこととなります。また新たな制度としては全く本学独特のものを含め5つの制度、2つのコース、2つの内規を作りました(表2)。また、入試、教育、国試、研究、初期研修と教学のほぼ全ての部門の改革を断行しました(表3)。目に見える業績としては新学舎が完成したこと、また数字に表れる成果として、入試の志願者倍率が約40倍と従来の3倍増になったことや、初期研修医がフルマッチするようになったことなどがあります。これ以外でも目に見えない、数字では表しにくい多くの成果が得られたと思いますが、一方中には期待する効果を上げられなかったこともありました。何よりもまだ道半ばのことが多く、種を蒔いただけのものもあります。ぜひ友田新学長のもと、実を成らせていただきたいと思います。またアドホック委員会の委員長や委員を務めていただいた方々に改めて心より感謝の意を表します。

法人

(3) 財務状態の改善—理事長との兼務

学長就任3年目に理事長就任の依頼がありました。その時、教学の責任者と経営の責任者が同じで良いのかという考えがよぎりました。しかし本学や他大学の過去・現在で兼務例が多く見られること、また新学舎を早期にかつ確実に完成させるために、さらに多くの教育・研究の改革を成し遂げるために財務的基盤の確立が最重要課題であることなどを踏まえて、兼務をお受けしました。その後全ての教職員の意識改革と精励、経営と運営の必死の努力が実を結び、ご承知のように本学の財務状態は加速的に改善しました。これらの経験から福澤諭吉の「財の独立なくして、学の独立なし」という言葉が正に私立医科大学に当てはまること、すなわち安定した財務的基盤なくして良い教育、研究、診療は行えないことを改めて身にしみて感じました。また、私はここ5～6年間の大学の改革期にあたっては理事長と学長の兼務は良かったと思います。しかし比較的安定期に入った今は、理事長は財務を安定させることで学長を支え、学長は教学の最終責任者として業務に専念する。そして二人が密に連携をとりながら法人・大

学の経営、運営、管理をするという理想の型に戻ったと言えます。

(4) 今後の教育・研究への期待

この8年間、私なりに大胆な改革を断行してきたつもりですが、まだまだ積み残したことは多々あります。教育面では国試の合格率で、学長在任初期3年間は新卒で97%前後と良好でしたが、4年目に一度85%と急落し、その回復に数年かかり、今年やっと国試改革が功を奏し96%台に回復しました。しかし、これに満足することなく、一流の私立医科大学としては100%を目指すべきだと思います。また教育のグローバル化、ICT化、クラブ活動環境整備もさらに進める必要を感じます。そのために国際交流会館や牧野講堂(仮称、武道館)の建設も必要と思います。研究面では新学舎完成までの8年間のブランクは大きく、少し時間はかかるかと思いますが、科研費などの外部資金の更なる獲得や大学院生の充足率の向上などが必須と思います。また私自身の夢として、既にスペースは確保していますが、資金、人、環境が整った時に、ぜひ世界に成果を発信できる最先端医学研究所(仮称)の開設を成し遂げていただきたい

と思います。新学長にはご苦勞をかけ申し訳ありませんが、これらの実現を願っています。

最後に、新しい友田幸一学長を中心に、教職員が一致団結して、本学が全国的にもトップクラスの「5つ星」の大学になることを期待しています。8年間本当にありがとうございました。

改革

入試改革

授業料値下げ、センター入試導入、後期試験実施、試験会場増設

教育改革

6年一貫教育・カリキュラム抜本改正
TOEIC導入(英語教育強化)、ICT化導入

国試改革

学内試験制度変更、卒業・進級厳格化、国試対策合宿

研究改革

臨床綜研、研究トークランチ
がん関連・再生医療コンソーシアム

初期研修医制度改革

研修医待遇改善、研修プログラム改正

表 3

笑顔のさくら咲く、春 平成27年度医学部入学式を挙行

4月4日(土)午後1時30分から枚方学舎加多乃講堂において平成27年度医学部入学式が挙行され、大阪医科大学竹中洋学長ほか多数の来賓列席のもと、新入生117名を本学に迎えました。式典では緊張の面持ちで入場した新入生を前に、混声合唱団コールクライスが学歌「のぞみ」を斉唱。続いてお祝いの歌を披露した後、新入生が一人ひとり紹介されました。



117名の新入生と、記念撮影に収まる来賓・出席者

告辞に立った友田幸一学長は「皆さんは、医師になるための2,000日の1歩を踏み出したところ。これから続く医学生生活においても、初心を忘れずに頑張ってください」と述べました。その後新入生代表が宣誓し、全員分の宣誓書を提出。在校生代表も歓迎のことばを述べました。来賓の紹介、祝電の披露と続いた入学式は閉式し、最後に桜の花びらが舞う中、枚方学舎正面玄関前において全員で記念撮影を行いました。

入学式告辞

学長 友田 幸一

桜花爛漫の季節を迎え、新入生の皆さんご入学おめでとうございます。本日117名の皆さんを迎えて、平成27年度の入学式を挙行できますことは、私たち関西医科大学の教職員にとりまして、誠に大きな喜びであります。ご臨席をいただきました大阪医科大学竹中洋学長をはじめご来賓各位に厚くお礼を申し上げます。4,433名の受験生の中から競争率約40倍という難関を見事に突破しての合格であり、ご本人の努力と、皆さんの勉強と生活の支援を続けてこられたご家族や関係の方々には心からお祝いを申し上げます。

私事で恐縮ですが、私自身も実は山下敏夫前学長(現理事長)の後任としてこの4月から新しい学長に就任いたしました。今から38年前の昭和52年に本学を卒業した先輩にあたります。皆さんと共にスタートすることを嬉しく感じ、また記念すべき学年であることを

申し上げたいと思います。

さて、皆さんは本日の入学式を迎えて、喜びとともに、これから始まるキャンパスライフに大きな期待を抱いておられることでしょうか。そこで皆さんの母校となる関西医科大学とはどういう大学かについてまずお話しします。

本学は昭和3年(1928年)に枚方市の牧野の地で、大阪女子高等医学専門学校として創設され、その後大阪女子医科大学と改名し、そして26年後の昭和29年(1954年)に男女共学制を採用して校名を関西医科大学と改めました。今年で創立87周年を迎え、卒業生総数は7,900名を越える歴史と伝統のある大学です。

その長い歴史の中で、近年、大きく変革を遂げました。その一つ、今、皆さんがおられるこの学舎は、一昨年の4月にオープンしたばかりで、100年先までも

法 人

つ立派な建物で、延床面積4万2千平米という甲子園球場が二つ入る大きさです。「グリーン&エコ」をモットーとし、正面玄関を入れて目の前に広がる広い中庭が目に入ったことと思います。これまで3つに分かれていた学舎をここ一つに統合し、「全学年が学ぶキャンパス」、「最新の研究施設」、「最先端医療を担う附属病院(本院)」が同じ場所で揃い、それがスカイウェイで直結することになり、私共の長年の夢であった「真の学園」がここに誕生しました。

新学舎の4階までは、講義室、実習室、講堂、図書館など、主に学生の教育施設が、5階以上は臨床と基礎の全講座の研究室及び居室が、そして中層棟は、近代的な動物センター、総合研究施設など中央研究部門が配置されています。近い将来は最先端の医学研究所の設立が計画されています。恐らくこれらの諸施設は現在の日本の医科大学の中でも有数の教育研究施設ではないかと思えます。

一方、医科大学にとり附属病院は医学教育の原点であります。本学には枚方病院、滝井病院、香里病院の3つの附属病院があります。この学舎に隣接する枚方病院は本院であり、9年前に開院し、最新、最強の診療機能を持つ751床の基幹病院です。3年連続で西日本あるいは大阪1位、全国でも5位の病院という高いランキングを得て、全国的にも大変注目されています。

分院である滝井病院は、元本院で私たちもそこで学びましたが、病床数494床の地域中核型の病院で、現在新しく建替えを行っており、来年の5月には急性期総合医療センターとしての機能をもった病院として生まれ変わります。もう一つの香里病院は病床数199床で5年前の開院という新しい地域密着型の病院で、枚方病院のサテライト機能を持っています。これらの3つの病院群に加え、人間ドックなど予防医療を担う天満橋総合クリニックを合わせ持つ本学の総合的な診療機能は、京阪沿線にそって展開されていて、「健康沿線」というキャッチフレーズで西日本一、かつ日本でも有数のものと考えています。これらの施設が皆さんの臨床医学教育の、そして将来の医師としての活躍の場になります。このように皆さんが入学する関西医科大学は、大きく変化を遂げ、その後も進化し続けていることをしっかりと頭に入れておいてください。

さて、皆さんは厳しい受験勉強を経て、めでたく本学に入学され、ホッとされていることと思います。しかし、大学に入ることがゴールではありません。単にスタートラインについたに過ぎません。医師になるための2,000日の1歩がこれから始まろうとしています。この一年が皆さんの学業生活から将来医師になってからの人生までを大きく左右することになります。その重要な点をいくつかお話ししたいと思います。

皆さんは「病気で苦しんでいる人を一人でも救いたい」という気持ちでこの医学の世界を選んだと思います。この初心の気持ちを決して忘れないでほしいということです。本学の建学の精神は「慈仁心鏡、すなわち慈しみ・めぐみ・愛を心の規範として生きる医人を育成する」ことで平成15年(2003年)に制定されました。これは昭和7年に本学2期生の当時20歳だった宮前澄子さんによって作詞された学歌のぞみの3番に出てくる、「慈仁を心の鏡となして、雄々しく生きむ医



法 人

の道に」に由来しています。この精神に則り、自由・自律・自学の学風のもと、学問的探究心を備え、幅広い教養と国際的視野をもつ人間性豊かな良医を育成することを教育の理念としています。この精神をひと時も忘れることなくこれからの6年間、教養を深め、医師として必要な知識、技能を学び、社会人としての常識、態度、人間性を身につけ、そして病める人の気持ち・感情が共感できる、すなわちempathyを持った良医をめざして勉学に励んでください。

次に皆さんのこれまでの勉強方法を大きく変える必要があります。その理由はこれから学ぶ医学知識の量は膨大で、暗記力中心の勉強法ではとてもやっつけられないからです。人間の体を古くは中国医学で「五臓六腑」と表現したりしますが、人体は、1kg当たり平均1兆個の細胞からなり、体重60kgの人ですと全身で約60兆個の細胞で作られている事になります。また13の臓器と大きく9の器官からできていてそれらが互いに関連して機能しています。そのどこかに破綻を来すと病気が発症します。では病気の数はいくらあるのでしょうか。俗に「万病に効く薬」など万病と表現されますが、20世紀初頭にWHO(世界保健機構)が調査した数では3,500と報告されています。ところが20世紀半ばでは倍の7,000に増えています。では現在はいくつと約1万と言われています。皆さんは6年間で、人体の基礎から臨床の病気まで、そのすべてについて学ぶわけですが、当然覚えきれない量ではないですね。ではどうすればいいのでしょうか。

個々の知識の意味を理解し、整理し、考え、そして能動的に自在に使いこなす知恵を学ぶ必要があります。それは教科書を読んだだけでは理解できず、授業に出て先生の話聞く中で、キーワード、キーポイントを発見することができるのです。皆さんの学年から初めて導入されるICTを応用した新しい学習システムを用いて、教員と学生の双方向のアクティブラーニングが開始されます。

一方、大学というところは皆さんの自主性、主体性

を引き出す場でもあります。これまで受験勉強のためにできなかった、堪えてきたことをこの機会に大いに発揮し、持っている才能や個性に磨きをかけてください。本学にはたくさんのクラブ活動があります。その活動を通じて、多くの友人と素晴らしい人間関係を築いてください。また新しいことにもチャレンジして欲しいと思います。教育項目の中にも皆さんの主体性を引き出すカリキュラムがいくつかあります。少し紹介しますと、まず2年生から将来山中伸弥先生のような科学者を目指す研究医養成コース、3年生では自分で計画し実行できる配属実習、そして6年生では海外の医学・医療を学んでくる海外臨床実習などです。皆さんの一人ひとりがこの6年間を関西医科大学で過ごしたという何か証を残して欲しいと願っています。そうすることによって母校愛が芽生えることになるでしょう。ただ勉学と自由活動のバランスが重要で、自分の能力を常に把握し、学生生活にメリハリをつけることも忘れないでください。

最後は、医学生であると共に社会人であるという自覚を持って行動してください。まず挨拶をしましょう。これは礼儀の基本であり、医師としての出発点でもあります。もう一つは身だしなみには注意してください。本当の自由はきちんとした規律の中にこそあることを忘れないでください。

さて、本日の入学式には、50年前に本学に入学された皆さんの先輩をご招待しています。まさに医療界で重鎮としてご活躍の方々が、ご多忙の中を皆さんの入学にエールを送るために出席していただきました。本学は常に同窓生の母校愛によって見守られていることを銘記してください。

最後に、新入生の皆さんには、これから関西医大人としての誇りを持って、実り多い学生生活を送られますことを祈り、私の告辞といたします。本日は誠にありがとうございます。

法人

退任の挨拶

退任の挨拶

前産科学・婦人科学講座教授 神崎 秀陽



平成7年5月の入職以来、約20年間講座主任を担当させていただきましたが、私には長かったという感覚はありません。着任後、産科(周産期)、婦人科、生殖内分泌という当科の主たる3領域をカバーする診療体制をより明確にすべく、

外来日程なども大幅に組み替えて努力しました。しかし附属病院(滝井病院)におけるハード面の制約は大きく、また産婦人科医師数不足は深刻で、思うようには診療規模を充実・拡大することはできませんでした。

7~8年が過ぎた頃、枚方新病院建設案が出され、診療科としての構想を聞いていただく機会がありました。そこで周産期医療や生殖医療はそれぞれセンターとして診療科枠を超えて協調して高度先進医療を提供することが求められており、病院機能の充実のみならず経営上も非常に有益であることを説明し、行政への申請に要する施設基準や先行していた関東地方の施設図面なども準備室に提出しました。そして理事の方々のご理解と関連各科のご協力のおかげで、大阪府初認

可の総合周産期母子医療センターと生殖医療センターを開設することができ、懸案であった診療構想がようやく実現できました。

しかし同時期に新研修医制度が導入されて医師不足が加速した一方、想定どおり産婦人科(女性診療科)の外来患者数、分娩数、手術件数などは著明に増加しましたので、教室員の負担は以前にも増して重くなってしまいました。診療と臨床教育に重点を置き研究も充実すべく努力したつもりでしたが、振り返ってみれば、診療に重点を置きすぎたのではないかと自省しています。

対外的には、医師国家試験委員や大学評価・学位授与機構専門委員、医薬品医療機器総合機構専門委員なども務めさせていただき、また幾つかの全国規模学会の主催や、生殖医療関係学会の理事長なども経験しましたので、多忙ではありましたが非常に充実した日々を過ごすことができました。大学の更なる発展を祈念し、お世話になった教室、同門会、同窓会の諸先生方、大学及び病院の事務、コメディカルの方々には心から感謝しております。

退任の挨拶と御礼

前臨床検査医学講座主任教授 高橋 伯夫



平成5年から22年間お世話になりました。着任の挨拶時に塚原前理事長から「病院の改築が間もなく始まるので設計等よろしく頼む」と言われてから長年月を経て枚方病院が開院し、臨床検査部門は国内外の医療機関に先駆けて迅速検査体制を構築しました。その病院が世間から高く評価されていることを誇らしく思います。

長かった在任期間中の思い出は数多い中で、何と言っても滝井病院の病院長です。巨額の赤字経営体質となっていた同病院の再建のために徳永前常務理事からご指名を受け3日3晩、悩んだ末に決断してお受けしました。案の定、着任直後に取引銀行の支店長が院長室に現れ、上から目線で、「先生は、この巨額の借金をどうやって返済されるつもりですか？」と問いただされたものです。幸いなことに着任直後から収支は顕著に改善し、職員の顔つきも明るくなるのが見えました。職員間の風通しを良くして、些細なことにも

耳を傾け、迅速に対応したことが、今になって良かったと思われれます。

2年近くを経た頃の法人理事会の席上、井植敏理事が、「滝井病院の業績の急速な回復は素晴らしい。その手法を企業再建にも活かしたいので手解きして欲しい」と冗談風に述べられました。身に余る賛辞で驚喜しましたが、その直後に三洋電機は崩壊したのですから、井植氏は藁にも縋る思いで本心を述べられたのかも知れないと振り返って思います。

この間に私を支えて頂いた滝井病院の職員一同、講座主任教授各位には、改めて心より御礼を申し上げます。本学にとって、当時の滝井病院の経営状況が浮沈をかけた勝負の時であったことは周知でしょう。幸いにも、復興に際して良い仕事できたことは私の人生にとって大きな財産です。山下理事長の陣頭指揮の下に、その後の本学の目覚ましい躍進には目を見張るものがあります。今後、関西医科大学が私学の“雄”として世界に羽ばたいて行かれることを心より祈念致します。

退任にあたって

前数学教室 教授 前田 茂



数学担当の教員として奉職させて頂いて最も腐心したものの1つが、医学教育の中でどういう役割を果たせばよいか、という点であった。医歯薬系の数学では、まず統計の重要性が指摘されるだろ

う。実際の問題に直面して統計ソフトを使用する際、どういう手法を使えばよいか、手法を適用した結果からどういう結論を導けばよいか、そういうことへの対処法のあらましを知り、統計ソフトを使いこなせるようになって貰うことは、教える側にとって最も重要な課題である。実際に対処せねばならない問題の内かなりのものが定型的な手法を適用できるという事情を考慮して、よく使われる代表的な手法達を説明し理解して貰うことに主眼を置いた。

しかし、問題によっては、手法を下支えしている数学的背景を理解しておかないと誤用になりかねないケースもあり、一見数式とは無関係に見える論理的判断

力や分析力の涵養にも数学が資する面は大きいのでは、ということも考慮して、初年時の数学ではまず基礎的事項をなるべく広い範囲で講義する方針をたてた。しかし、十分な効果が上がったかどうかは今でも些か心許ない。

統計に局限する訳ではないが、数学が持つ重要な応用面として、様々な分野の現象について、その核心的な部分を抽象化してから式に表現し、数学を用いて解析や予測などを行うことがある。前世紀に数学モデリングという名称で、様々な応用例を載せた書物が出版された時期があった。最近、数学関係の学会で、医学的な問題について数学を積極的に活用して解析等を行った研究が発表されていることも付記したい。

最後になりますが、在職中には多くの方々にお世話になったことに感謝を申し上げるとともに、関西医大の今後益々の御発展を祈念して、退任の御挨拶とさせていただきます。どうも有り難うございました。

退任にあたって

前内科学第二講座教授 西川 光重



私が関西医大に赴任したのは1982年でした。それから約33年の長きにわたってお世話になりました。この間、カナダに約1年間留学した以外は人生のほぼ半分を関西医大とともに過ごしたことに

なります。

振り返ってみれば、在職中は様々な経験をする事ができました。当初は大学本部のある滝井で、診療とともに研究と学生や看護師の教育に携わりました。2002年に創設された教育企画室を担当し、チュートリアル教育の導入にも参画しました。学生の国外実習の魁として本学との協定書に調印するため2006年にマレーシアの国立循環器病センターInstitut Jantung Negaraに赴いたことも思い出します。附属看護専門学校校長や医師国家試験委員も経験することができ

て医療従事者の教育と評価についても勉強できました。附属滝井病院となってからは循環器腎内分泌代謝内科を中心に、心臓血管病センター、透析センター、健康科学センターや、栄養管理部、感染制御部も担当させていただきました。

このような多くの経験を通じて幅広い職種の皆様と一緒に仕事をすることができたことは大変有意義でした。本学退職後もしばらく医療業界に係わる予定ですので、これからもどこかでお世話になることがあると思います。長い間のご厚意に感謝するとともに、今後ともご指導、ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。

関西医大の益々の繁栄と、本学に関係する皆様のご健勝とご活躍をお祈りしています。

着任のご挨拶

附属生命医学研究所神経機能部門 学長特命教授 小早川 令子



本年度より関西医科大学に着任いたしました。よろしくお願いいたします。簡単ではありますが、私たちの研究室の紹介をさせていただきます。私たちは、哺乳類の脳が多様な情動や行動を制御するメカニズムの解明を目指した研究を行っています。情動とは

恐怖、母性、食欲など、ヒトや動物が生存するために欠かせない本能を呼び起こす脳の機能です。正常な情動は行動を生存に適した方向へ動機付ける重要な役割を持ちます。しかし、情動に異常が生じると様々な種類の治療困難な精神疾患を誘発する原因ともなります。従って、情動の制御メカニズムを解明することは私たちの行動を制御する基本原理の理解に繋がり、精神疾患の新たな治療法の開発へ発展することが期待できます。

情動は外界からの感覚刺激によって誘発されますが、脳が外界の情報の意味を判断して情動を誘発するメカニズムは未解明です。私たちはこの問題を解明するため、匂い情報を脳へ伝達する嗅覚神経回路をモデルにした研究を進めてきました。嗅覚系では、感覚入力特定の化学構造を持つ匂い分子として明確に定義できます。また、匂いに応じて多様な情動や行動が誘

発される特徴があります。私たちは匂い分子、匂い分子のセンサーとして機能する嗅覚受容体、匂い情報を脳へ伝達する嗅覚神経回路、脳の中枢部の情動処理回路を順番に追跡することで、感覚入力から情動や行動の出力までのメカニズムの全貌解明を目指した研究を、さらに発展させたいと考えています。

私たちの研究室には、極めて強力な先天的恐怖情動をげっ歯類に誘発する匂い分子や、自動パラフィンライド作成装置と自動in situ hybridization装置を組み合わせた全脳活性化マッピング装置、1,030種類の全マウス嗅覚受容体に対する活性化スクリーニングなどの独自ツールなど、様々な行動実験を実施する装置が設置されています。これらは嗅覚研究以外にも様々な研究で活用できると思います。できれば基礎や臨床の先生方との共同研究を積極的に進めたいと思いますので、この点に関してもよろしくお願いいたします。

— 略 歴 —

平成7年3月	東京大学工学部化学生命工学科卒業
平成12年3月	東京大学大学院理学系研究科生物化学専攻博士課程修了・学位取得(理学)
平成12年4月	東京大学大学院理学系研究科生物化学専攻博士研究員
平成19年10月	科学技術振興機構・さきがけ研究者
平成21年4月	大阪バイオサイエンス研究所・神経機能学部門・室長
平成26年4月	大阪バイオサイエンス研究所・神経機能学部門・研究部長
平成27年4月	関西医科大学附属生命医学研究所神経機能部門・学長特命教授

産科学・婦人科学講座教授に就任して

産科学・婦人科学講座教授 岡田 英孝



平成27年4月1日付けで神崎秀陽名誉教授の後任として産科学・婦人科学講座の主任教授(歴代11代目)を拝命いたしました。ご推挙いただきました諸先生方に厚く御礼申し上げます。伝統ある教室を主宰させて頂くことになり、大変光栄に思っています。

私は神戸市の出身で、本学産科学・婦人科学講座に入局し、そこでの豊富な経験は私の臨床の礎となっています。平成13年からは体外受精(IVF)専門のIVF大阪クリニックおよびメルボルンにあるプリンスヘンリー医学研究所にて、最先端の生殖医療技術を修得しました。

産科学・婦人科学講座では、診療として周産期、婦人科腫瘍、生殖内分泌・不妊などの治療を担当しています。診療科名は、枚方病院では、産科・婦人科・婦人科内視鏡外科、総合周産期母子医療センター、生殖医療センター、滝井病院では、産婦人科、香里病院では、婦人科となっています。総合周産期母子医療センターは、新生児集中治療室(NICU)の協力のもと、最重症妊産婦を受け入れています。今後も、安心・安全な体制を整え、他の診療科との緊密な連携により母体

や胎児に先進医療を提供したいと考えています。生殖医療センターは、腎泌尿器外科と共同管理のもと、経験に裏打ちされた高度な生殖医療を提供しており、今後さらに発展させたいと思います。新設された婦人科内視鏡外科による婦人科腫瘍に対する低侵襲内視鏡手術や、悪性腫瘍治療前に若い女性の妊孕性温存(卵子・胚凍結保存)にも取り組みたいと考えています。

研究については、教室のメインテーマである子宮内膜機能に関する研究を発展させるとともに、周産期、婦人科腫瘍、生殖内分泌など多彩な幅広い分野に寄与できるよう種々の研究に取り組みたいと考えています。

今後とも一層のご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

— 略 歴 —

平成5年3月	関西医科大学卒業
平成5年6月	関西医科大学附属病院産婦人科入局 研修医
平成7年9月	関西医科大学産科学・婦人科学講座 助手
平成13年8月	IVF大阪クリニック 医長
平成15年4月	オーストラリア プリンセスヘンリー医学研究所留学
平成16年10月	関西医科大学産科学・婦人科学講座 助手
平成17年3月	関西医科大学産科学・婦人科学講座 講師
平成17年8月	兵庫医科大学臨床遺伝部 非常勤講師
平成25年7月	関西医科大学産科学・婦人科学講座 准教授
平成27年4月	関西医科大学産科学・婦人科学講座 主任教授

法人

就任の挨拶

数学教室教授に就任して

数学教室教授 北脇 知己



このたび、4月1日付けで数学教室の教授に就任いたしました北脇知己と申します。よろしくお願ひ申し上げます。もともと関西出身で、大阪や滋賀に長く暮らしており、慣れ親しんだ関西に久しぶりに帰ってくることになりました。これまでは、大学の医学部保健学科にて教育・研究を行ってきましたが、それ以前には民間企業で生体計測装置の技術研究や開発などを行っていた経験もあり、学生に対して幅広い指導ができるのではないかと考えています。以後、お見知りおきいただければ幸いです。

さて、医学における数学の役割は、思いのほか大きいと考えています。例えば、生理的な生体反応をモデル化して理解するためには、微分方程式の知識は欠かせませんし、ゲノム解析やバイオインフォマティクスの基本を理解するには線形代数の知識が必要です。もちろん、治療効果を定量的に判定するためには、統計学の知識が必須です。このように、医学を志す者にとって数学は知識として知っておくだけでは不十分で、道具として使いこなせるようにならなければならないと思います。そのためには、医学に必要な数学を実践的に理解すること、さらに数値に対する感覚的な理解

をトレーニングすることを目標に、これからの学生指導を行っていきたいと思います。

また研究については、これまで培った生体計測の知識や生体数理モデル構築の経験を生かして、さまざまな生体现象を解明することを今後の研究活動の中心に位置付けていきたいと思っています。特に、これまでの専門である循環器系の計測装置や、生体運動のモデリングなどの研究を発展させていきたいと考えています。

このほか、プライベートでは、大学から続けているオーケストラでの演奏活動(ホルン)や、ここ数年集中して取り組んでいる自転車(ロードサイクル)などの活動を続けることで、健康的な生活を維持したいと思っています。みなさま、これからもどうかよろしくお願ひします。

— 略 歴 —

平成2年3月 大阪府立大学大学院 工学研究科博士前期課程 修了
平成2年4月 株式会社オムロンライフサイエンス研究所 研究員
平成11年5月～平成13年3月 理化学研究所情報環境室 研究協力員を兼務
平成13年4月～平成25年3月 理化学研究所共同研究員を兼務
平成15年3月 東京工業大学大学院 情報理工学研究所博士後期課程 退学
平成15年7月 岡山大学医学部保健学科 助手
平成19年3月 博士(工学)東京工業大学
平成19年4月 岡山大学大学院保健学研究科 助教
平成24年4月 岡山大学大学院保健学研究科 准教授
平成27年4月 関西医科大学数学教室 教授

麻酔科学講座心臓血管麻酔担当診療教授に就任して

麻酔科学講座 心臓血管麻酔担当診療教授 中嶋 康文



平成27年1月1日付けにて、新宮興主任教授のもと、関西医科大学麻酔科学講座心臓血管麻酔担当診療教授に就任致しました中嶋康文と申します。

これからの医療は細分化、専門化が進む一方で、横断化、総合化する分野が重要になります。麻酔科は両分野に関わることが出来ます。具体的には、中央手術部、集中治療部、感染対策部、緩和医療部という細分化された診療に関わっていますが、いずれも中央診療部門として病院機能に深く関わっています。つまり、建物の土台と一緒に、我々麻酔科医が担当する仕事が強固でないと、病院の臨床が立ちゆかなくなることは明白です。麻酔科医師は、解剖学・生理学・薬理学等の幅広い基礎医学知識を臨床に応用することで、手術の苦痛を除去し安全な周術期医療を提供する責務があります。

そして手術部門においては臨床各科のニーズに十二分に答えられるようにマンパワーを維持し、病院の経営に大きく貢献していくことが重要であると理解しています。その中で心臓血管麻酔は、麻酔診療のサブスペシャリティ部門として、魅力的な位置付けをなすと

考えております。何故なら、日本心臓血管麻酔学会は、1996年に195名の会員で設立された比較的若い学会ですが、現在、日本麻酔科学会会員数の1/4強を超える3,000名以上の会員数に増加し、飛躍的な発展を遂げている人気のある学会であるからです。

今後は、麻酔科の本務であります手術部門において「質の高い臨床麻酔」を提供できるように、心臓血管麻酔に関する教育・研修制度を整備し、麻酔科学に関連する領域と連携し、強い倫理観を持ったバランスのとれた麻酔科医を育成していきたいと考えています。

今後ともご指導ご鞭撻の程、何卒、宜しくお願ひ申しあげます。

— 略 歴 —

平成4年3月 京都府立医科大学医学部卒業
平成4年6月 京都府立医科大学医学部附属病院研修医
平成5年4月 社会保険神戸中央病院勤務
平成6年4月 京都府立医科大学大学院博士課程入学
平成10年3月 京都府立医科大学大学院博士課程修了
平成10年4月 京都府立医科大学附属病院修練医
平成10年7月 舞鶴赤十字病院麻酔科医長勤務
平成11年2月 医学博士
平成12年4月 京都府立医科大学医学部助教、京都府立医科大学小児集中治療部勤務
平成13年9月 アメリカ合衆国アイオワ州アイオワ大学研究従事
平成14年4月 アメリカ合衆国カリフォルニア州スクリプス研究所研究従事
平成14年9月 京都府立医科大学医学部助教
平成19年4月 京都府立医科大学医学部学内講師
平成25年4月 京都府立医科大学医学部講師
平成27年1月 関西医科大学麻酔科学講座胸部心臓血管麻酔担当診療教授

法 人

就 任 の 挨 拶

胸部心臓血管外科学講座呼吸器外科担当診療教授に就任して

胸部心臓血管外科学講座 呼吸器外科担当診療教授 村川 知弘



平成27年4月1日付で、関西医科大学胸部心臓血管外科学講座呼吸器外科担当診療教授に就任いたしました村川知弘と申します。湊直樹教授のもと、本学の呼吸器外科診療の発展に努力したいと存じます。また約120万人を抱える北河内医療圏の呼吸器外科診療の一助となるべく尽力したいと存じます。よろしくお願ひ申し上げます。

呼吸器外科医の担当する領域は心臓・食道を除く胸郭内臓器の手術であり、特に肺癌手術の担当が重要な役割となります。肺癌制圧に最も効果があるのは現時点では公衆衛生的アプローチであろうとは思いますが、すでに発生した肺癌に対しては臨床医学で立ち向かわざるを得ません。呼吸器外科が担当する手術治療は、生理学的な負担を伴うことも多い比較的侵襲の大きな治療ですが、可能な限り胸腔鏡下での低侵襲な手術となるよう心がけ、患者さんの負担を少しでも小さくできればと存じます。胸腔鏡手術の副次的な効果として、手術室にいる医療スタッフや医学生がモニター上に写る画面を共有できるという利点があります。手術操作そのものは外科医に委ねられているわけですが、手術室内に居る他分野の方々からも安全性を逐次厳しくチェックしていただければと存じます。

低侵襲手術では太刀打ちできない局所進行胸部悪性腫瘍(肺癌や浸潤型胸腺腫など)も完全切除が可能であり、予後が期待できる状況であれば怯むことなく積極的に手術治療を行いたいと存じます。胸部心臓血管外科学講座であることの利点を生かせればと考えております。前任地では局所進行肺癌、浸潤型胸腺腫などに対する拡大手術以外にも、左心室補助装置(LVAD)装着患者の肺癌手術など特殊な状況下での手術も執刀する機会がありました。このような特殊な手術を安全に乗りきるためには他部門との良好な連携が重要です。特殊な例に限らず、肺癌診療をはじめとする呼吸器外科診療は、診断から治療まで他分野の諸先生やコメディカルスタッフのご協力がなくては成り立ちません。御指導・御協力の程を何卒よろしくお願ひ申し上げます。

— 略 歴 —

平成4年3月	東京大学医学部医学科卒業
平成4年6月	東京警察病院 麻酔科研修医
平成4年12月	東京大学医学部附属病院 外科研修医
平成5年12月	国保旭中央病院 外科医員
平成7年12月	東京大学医学部附属病院 胸部外科医員
平成9年1月	日本赤十字社医療センター 心臓血管外科医員
平成10年1月	東京大学医学部附属病院 胸部外科医員
平成14年3月	東京大学大学院医学系研究科外科学専攻修了
平成14年4月	東京大学医学部附属病院 呼吸器外科助手
平成15年6月	米国コロラド大学胸部外科リサーチフェロー
平成19年4月	東京大学医学部附属病院 呼吸器外科助教
平成22年2月	東京大学医学部附属病院 呼吸器外科講師
平成27年4月	関西医科大学 胸部心臓血管外科学講座 呼吸器外科担当診療教授

麻酔科学講座区域麻酔担当診療教授に就任して

麻酔科学講座 区域麻酔担当診療教授 中本 達夫



この度、関西医科大学麻酔科学講座区域麻酔担当診療教授に就任いたしました中本達夫と申します。新宮興教授のもと、本学における手術麻酔並びに疼痛管理の発展に貢献できるよう、力を尽くす所存でございますので、どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

私が担当いたします区域麻酔とは、全身麻酔が脳に作用して意識や痛みをコントロールするのに対し、局所麻酔薬によって神経伝導を遮断する事で意識に影響なく特定領域の痛みをコントロールする手技で、単独での手術麻酔、全身麻酔との併用によるバランス麻酔、術後鎮痛法として用いられます。

私は、超音波診断装置を用いて手技を行う、超音波ガイド下神経ブロックを専門としています。これは2000年頃から報告され始めた比較的新しい手技で、私は導入初期より関わっていますが、従来の手技と異なり直接神経や血管などの構造を確認しながらの手技が可能となります。

また、超音波ガイド下手技は針の穿刺を伴う中心静脈路確保やペインクリニックの鎮痛手技など広い範囲でその有用性が認められています。ただし、これらの技術習得には教育システムの構築が必須ですが、この

領域は未だ十分に成熟していません。現状では基礎解剖などの研究・教育・臨床といったトータルでの区域麻酔に関する教育システムのある医育機関は国内にはなく、本学でのシステム構築と手技の普及が私の責務の一つと考えております。

また、麻酔科は外科系など関係講座との連携なしでは成り立ちません。求められるニーズを確認しつつ、密な連携でより良い鎮痛法を提案して参りたいと考えております。さらに、ペインクリニック領域における各種疼痛疾患や癌性疼痛の一部でも、区域麻酔の技術は非常に有用です。診療科の枠を超えて多くの科と協力し、質の高い医療を提供したいと思っております。

皆様方には、より一層のご支援ご指導を賜りますよう、何卒宜しくお願ひ申し上げます。

— 略 歴 —

平成4年3月	大阪市立大学医学部卒業
平成4年4月	同大学院医学研究科 外科系専攻入学
平成4年5月	大阪市立大学医学部 麻酔科・集中治療医学教室入局
平成4年6月	大阪厚生年金病院麻酔科 研修医
平成5年6月	大阪市立大学医学部 麻酔・集中治療医学教室
平成8年3月	同大学院修了
平成8年4月	大阪市立大学医学部附属病院 後期研究医
平成8年7月	大阪市立北市民病院麻酔科 医員
平成12年11月	Austin and Repatriation Medical Centre(現Austin Health) 麻酔科(オーストラリア、メルボルン)留学
平成13年4月	大阪市立北市民病院麻酔科 医長
平成17年4月	大阪市立住吉市民病院麻酔科 副部長
平成23年4月	大阪労災病院第三麻酔科 部長
平成25年4月	同ペインクリニック科 部長
平成27年4月	関西医科大学麻酔科学講座 区域麻酔担当診療教授

法人

枚方学舎が大阪の魅力向上に貢献 おおさか優良緑化賞受賞

2月16日(月)午後2時から、大阪府庁舎本館5階「正庁の間」において『平成26年度ストップ地球温暖化デー合同表彰式』が執り行われ、本学枚方学舎が第8回おおさか優良緑化賞大阪府知事賞を受賞し、表彰状が授与されました。これは、大阪府内の都市環境改善や魅力向上に貢献した緑化、新たな手法のモデルとなった緑化策を顕彰するための賞で、平成19年度から実施されているもの。枚方学舎は周辺の自然環境に調和した立体的な緑化を実現した点が評価され、今回の受賞に至りました。

挨拶に立った大阪府小河保之副知事からは「今後も継続して緑化の充実を図り、都市環境の整備・魅力向上に貢献して欲しい」との話がありました。



枚方学舎1階エントランスホールで表彰状を手にする木下利彦建設担当理事



緑の芝生が眩しい枚方学舎前景



シンボルツリーが植えられた中庭



淀川対岸から見た枚方学舎と附属枚方病院



空から見た枚方学舎



光が溢れる枚方学舎正面玄関

■大阪府知事賞 推薦コメント

当施設は、京阪枚方市駅から大学建物内を通り、淀川河川公園へと続くプロムナードとして一般開放されています。また途中にベンチを設置するなど憩いの場としても利用されています。敷地内の積極的な緑化により連続したみどりを形成するとともに、生物多様性への配慮として、クヌギやコナラ等の在来種を主体とした植栽が行われています。また河川敷沿いのポプラや接道沿いの緑化の一部について既存木を利用するなどの工夫が見られます。周辺への景観形成についてもゆるやかな坂を活かした立体的なみどりを目指しており、増築でありながら敷地内での緑地の一体化、周辺のみどりとの調和を考慮している点が評価されます。今後も地域の中核的なみどり形成の場として、また地域に親しまれる場として展開されることが期待されます。

施設設備整備拡充寄付金の募集

関西医科大学では平成27年度の寄付金として「施設設備整備拡充寄付金」を募集しております。これは医学・医療技術の進歩に対応して教育・研究・診療の施設設備の整備・拡充を進めるためのものです。

皆様のご支援、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

募集要項

- | | |
|------------|---|
| 1. 募集対象 | 本学学生の保護者、同窓会員、
本学関連の個人および法人その他 |
| 2. 募集金額 | 1口 100万円 1口未満でも申し受けます。 |
| 3. お問い合わせ先 | 関西医科大学法人事務局募金室
〒573-1010 大阪府枚方市新町2-5-1
TEL：072-804-2146(直通)
FAX：072-804-2344 |

前号掲載以降平成27年3月31日までにご寄付いただきました方々のご芳名(五十音順)を掲載させていただきます。ご芳志に対して衷心より感謝申し上げます。

〈個人〉



〈法人〉

“代が途切れない”縁起物 齋藤名誉教授から柏の樹が寄贈されました



寄贈された柏の前で記念撮影に収まる齋藤名誉教授(中央)、山下理事長(右)、澤田常務理事(左)

1月30日(金)枚方学舎・学園の森において、本学齋藤國彦名誉教授から寄贈を受けた柏の樹2株が植樹されました。この日は齋藤名誉教授も本学を訪れ、山下敏夫理事長・学長、澤田敏常務理事とともに植えられたばかりの柏の樹を見学。新芽が芽吹くまで落葉しない柏は“代が途切れない”縁起物とされており、その柏の前でしばし昔話に花が咲きました。

なお、寄贈された柏は枚方学舎から見て学園の森左手手前に1本、右手奥に1本が植えられていますので、ぜひご見学ください。

文化勲章受章者富永直樹氏の作品 「牧場の少女」が寄贈されました



富永良太氏より寄贈された「牧場の少女」



「牧場の少女」を囲んで記念撮影に応じる山下敏夫理事長、腎泌尿器外科学講座松田公志教授、富永氏(左から)

3月3日(火)、日本の工業デザインの祖として活躍し、三洋電機在籍時代には黒電話4号機や日本初のカラー電話、家具調テレビなどのデザインに携わった文化勲章受章者故富永直樹氏の作品「牧場の少女」が、ご子息の富永良太氏から寄贈されました。

なお、この像は枚方学舎1階メインエントランスに入って右手奥に設置されておりますので、ぜひ一度ご覧ください。

附属滝井病院リニューアル事業計画 進捗報告



地盤改良工事が進む地下部分(平成27年3月撮影)



旧専門部学舎の解体工事が平成25年10月に開始されて、約1年半が経ちました。附属滝井病院リニューアル事業計画の新本館建設は順調に進んでおり、地下・基礎部分の作業は完了しつつあります。また、地上にはタワークレーンが設置され、これからいよいよ新本館の建物建設が本格化します。来年5月の開院に向けて、今後も細心の注意を払って安全確保に取り組みつつ、着実に工程を進めていく予定です。

■リニューアル工事定点観測



平成27年1月時点



平成27年2月時点



完成予想図

主な出来事

今号掲載期間の主な出来事をご紹介します。(記事掲載は太字)

法人	<p>1月30日 斎藤名誉教授寄贈の柏植樹</p> <p>2月16日 おおさか優良緑化賞大阪府知事賞授賞式</p> <p>4月1日 一般職入職式</p> <p>4月1日 ～4日 入職者研修</p>	 <p>医学部卒業式</p>
大学	<p>1月8日 公的研究費に関わるコンプライアンス研修会</p> <p>1月31日 一般入試(前期)第一次試験</p> <p>2月15日 一般入試(前期)・センター利用入試第二次試験</p> <p>2月18日 大学院講座「臨床研究計画書の書き方」</p> <p>2月27日 第1回関西医科大学画像診断支援研究会・ 第3回病態分子イメージングセンター年次集会</p> <p>3月4日 医学部卒業式</p> <p>3月7日 一般入試(後期)第一次試験</p> <p>3月13日 学内学術集談会</p> <p>3月18日 一般入試(後期)第二次試験</p> <p>3月18日 臨床系研究室セミナー・ 再生医療コンソーシアム研究会</p> <p>3月24日 平成27年3月学位記授与式・医学会賞受賞式</p> <p>3月27日 北大阪工業クラブ</p> <p>3月27日 業務改善コンテスト発表会</p> <p>4月2日 Student Doctor認証式</p> <p>4月4日 平成27年度医学部入学式</p> <p>4月4日 慈仁会定期総会</p>	 <p>業務改善コンテスト発表会</p>
病院	<p>2月1日 香里病院1床減床・附属枚方病院1床増床</p> <p>3月14日 3病院看護研究発表会</p>	 <p>附属枚方病院ボランティア表彰式</p>
附属 枚方病院	<p>1月9日 日本私立医科大学協会医療安全相互ラウンド</p> <p>1月22日 教育講演会「災害時の病院の役割」</p> <p>2月25日 循環器救急フォーラム</p> <p>2月27日 医療訴訟ガイダンス</p>	
附属 滝井病院	<p>1月29日 消防訓練</p> <p>2月12日 第2回健康まちライブラリー</p> <p>2月23日 安全衛生講習会「身近にある職場のハラスメント」</p> <p>3月13日 業務改善コンテスト発表会</p> <p>3月14日 第6回よくわかる肝臓病セミナー</p>	 <p>附属看護専門学校卒業式</p>
香里病院	<p>2月21日 バレンタインコンサート</p> <p>3月13日 業務改善コンテスト発表会</p>	
附属看護 専門学校	<p>1月9日 一般入試(前期)</p> <p>2月17日 一般入試(後期)</p> <p>3月2日 卒業講演会</p> <p>3月5日 附属看護専門学校卒業式</p> <p>4月3日 平成27年度附属看護専門学校入学式</p>	
卒後 臨床研修 センター	<p>1月24日 看護副師長研修</p> <p>1月25日 看護シスター研修</p> <p>1月29日 看護管理者研修</p> <p>3月27日 臨床研修修了式</p> <p>4月1日 平成27年度採用臨床研修医入職式</p>	 <p>学内学術集談会</p>

大 学

6年間の思い出を胸に、103名が巣立つ 第61回医学部卒業式、挙行

3月4日(水)午後1時から、枚方学舎加多乃講堂において第61回医学部卒業式が挙行されました。卒業式冒頭で103名の卒業生は、出席者らの万雷の拍手に迎えられ晴れやかな表情で入場。混声合唱団コールクライスによる学歌斉唱に続き、山下敏夫理事長・学長から卒業生一人ひとりに学士(医学)の学位記が授与されました。その際、山下学長から握手を求められると、全員が感謝の言葉とともに力強く応えていました。また、山下学長は告辞の中で「一人の医師として、一人の社会人として、今後の成長を期待しています。そしていつの日か、何らかの形で本学に帰ってきて欲しいと願っています」と述べました。



学位記を読み上げる山下理事長・学長

その後は在学生代表送辞・卒業生総代答辞の交換、来賓紹介、同窓会会長祝辞、各賞贈呈、「仰げば尊し」斉唱と続き、最後は出席者全員の祝福を受けながら卒業生が退場して、卒業式は幕を閉じました。

卒 業 式 告 辞

学長 山下 敏夫

卒業生の皆様、ご父兄の皆様、本日はご卒業誠に御座りましてありがとうございます。本学を代表いたしまして心からお祝い申し上げます。

また本式典にご臨席頂きました大阪医科大学竹中洋学長をはじめご来賓の皆様にも心から感謝申し上げます。

本日、男子60名、女子43名、合計103名の卒業生を送り出すことができ、また皆様の晴れ晴れとしたお顔を拝見し、私自身大変な喜びであり、同時にこれまでの努力と研鑽の成果を心から讃えたいと思います。

さらに皆様の卒業を心待ちにしながら学業や生活の支援を続けてこられたご家族、関係の方々に深く敬意を表します。

私は今月末で8年間の学長の任期が終わりますので、私にとり今回が最後の卒業式告辞となります。し

たがいまして、あまり格調などを意識せず、本日は私が皆様に心から期待すること、皆様の今後に本当に大切だと思ふことを本音でお話し、饒の言葉といたします。

皆様は、本日卒業され、医師国家試験に合格しますと2年間の研修義務化があるとはいえ、医師として医学・医療界で活躍することになります。現在の日本の医学・医療界には多くの問題が山積しています。例えば社会保障制度改革、少子高齢化に伴う2025年問題、診療報酬改定、医師不足、地域格差、診療科格差、医学部新設、研究力低下、研究倫理、医学教育の国際化などです。このような医学・医療界に皆様は明日から直面するわけですが、本学の建学の精神「慈仁心鏡」を忘れず、絶えず前向きに行動すれば、将来は明るいと思っております。ただ1つ、今述べた諸問題の中の医

大 学

師不足、地域格差、診療科格差、研究力低下と多くの部分の元凶とも言え、皆様にも直接大いに関係する初期臨床研修制度について少し詳しく述べ、その現実的対応についてお話したいと思います。

10年前に新医師臨床研修制度が発足して以来、医学・医療の分野で想像以上に大きな変化が生じました。それまで80%以上の人が卒業後、母校を中心とした大学病院で研修していたのが、最近では半数以下の43%に激減しております。その結果、大学の医師派遣機能は弱体化し、地方や僻地に赴任する人が激減し、地域医療が崩壊しました。また「鉄は熱いうちに打て」と言われますが、この医師としての大切な初期に甘やかされてしまい、いわゆる仕事が厳しい外科、産科、救命科などを敬遠する診療科格差が顕著になりました。「志」はどこへいったのでしょうか。嘆かわしいことです。さらに大学で研究する人も激減し、医学研究力の低下は目に余るものがあります。このように新医師臨床研修制度は、当初の理念はほとんど果たせず、弊害ばかりが目立ちますので、現在全国の医学部や医科大学の組織を上げて、この制度の廃止を含めた抜本的改革を提案し、行動しているところです。しかし廃止までには時間がかかると思います。それまで、

皆様は現実的にこの制度にどのように上手に対応していけば良いのでしょうか。

それぞれの進路ごとの対応を勧めるために、皆様の進路を調べてみました。その結果、大学病院で初期研修をする人が約6割(そのうち本学が2/3弱、他大学が1/3強)、そして市中病院で行う人が残りの約4割となっています。

大学病院で研修をする人は将来、志望するであろう診療科を頭に描き、その中で必要となるプライマリーケアの基礎を学んでください。実は大学病院ほど色々な疾患を持った患者さんを診れる所はありません。その間余裕があれば臨床研究をし、また、大学院に入ることも1つの道です。2年の研修後は大学病院でしかできない高度な専門臨床教育を受け、まず専門医になる。そしてその後は大学を基点に関連病院に出入りをし、総合的なキャリア形成をしてください。学位を取ることや留学することも極めて意義のあることです。

一方、初期研修を市中病院ですると決めている方々は、その病院で2年間プライマリーケアを中心にしっかりと臨床経験を積んでください。ただし、その後必ず一度は大学病院に戻ってください。市中病院で研修し、そこで働くことは勿論ある程度の技術は修得でき

ると思います。しかし病気を病因から探り、トータルな診療を行うにはサイエンスは不可欠です。サイエンスが行えるのは大学です。決していわゆる「民間医局」に入り、根無し草になり、しっかりした修業もせずに開業しないでください。そのようなことをすれば、ご自分のみならず日本の医療の実力が低下します。

さて、市中病院で研修する人は必ず一度は大学に戻ってくだ



大 学

さいとお願ひしましたが、その際は是非、わが関西医科大学に戻ってください。他大学で研修される方も、可能なら後期研修は本学で行ってください。本学は学生としての皆様には、まさに「灯台下暗し」のところもあるかもしれませんが、最近全国でも良い意味で大変注目を浴びている医科大学です。

その一端を改めて説明してみます。一昨年(2014年)の4月に本学は待望の新学舎が完成し、これにより本学の全てが変わりました。本邦で屈指かつ最新、最強の教育研究環境が整いました。皆様は2年間と短い期間でしたが、新しい学舎での生活を満喫されたことと思います。この新学舎完成、授業料値下げ、種々の入試改革で今年の入学試験志願者数は4,433名(約40倍)と高率になり、偏差値も上がりました。

一方、附属枚方病院はここ最近で大阪1位、全国でも5位の病院という高い評価を得て、全国的にもリーディングホスピタルの1つです。さらに高度で良質な安全な医療を行うために、診療機能の大幅な強化を行いました。その部門で全国的な腕を持つ診療教授を公募で、この2年間で13名という多数の方を選出、任用しましたし、手術支援ロボット「ダ・ヴィンチ」の導入をはじめ最新の施設、設備の拡大、充実を図っています。

附属滝井病院に関しては念願の新病院建設が既に一昨年(2014年)10月に着工し、来年の春に完成します。その1年後には広く緑豊かなホスピタルガーデンも完成し、素晴らしい急性期総合医療センターに生まれ変わります。新病院が建ち上がるまでの間の活性化のために附属滝井病院でも、心臓血管病センター、透析センター、PETセンター、プレストセンターの新設や高名な特命教授、診療教授の任用など診療機能の大強化を行い、好評を博しているところです。

香里病院も地域中核病院として大変活躍しています。また、待望の4年制の看護学部新設が決定し、3年後には開部となります。

次に皆様に直接関係のある本学の諸制度について触れますと、大学病院で働き一定の収入を得ながら医学研究を行い、専門医と学位の両方の資格を取得できる大学院「臨床系社会人コース」や初期研修の2年目から大学院に入学できる「臨床研修医社会人コース」、また、意欲的な若手や中堅医師を世界のトップレベルの施設に、大学が費用を持って臨床留学できる「スーパードクター制度」など本学特有の魅力的な制度が多々あります。また女性医師のための「短時間労働正職員制度」があり、さらに本年度に保育所の拡張を予定しています。

本学は今年で創立87年目に当たります。創立90周年を迎える平成30年までには本学の主要施設は全て新しくなり、また枚方病院建設時に生じた巨額の借入金も実質的に完済したいと考えています。その後は資金を全て教育、研究、診療の内容の充実に充て、創立100周年を迎えるころには日本に冠たる「5つ星」の医科大学になっていると思います。本学は日々進化し発展します。皆様は益々母校を信じ、誇り、頼ってください。

最後に繰り返しになりますが、皆様には、後期研修あるいはそれ以降の一時期を是非関西医科大学に戻り、今述べましたこの素晴らしい本学の教学・診療の諸施設やシステムの元で、キャリア形成されることを心から願っています。私はそれが皆様のためになると信じています。留学もしてください、また大きな志、高い志に向かって夢を持ってください、夢を語ってください。そして、これから出発する人生航路の原点は母港「関西医科大学」であることを忘れないでください。何かありましたらいつでも母港を頼り帰港してください。

皆様がこの進化する関西医科大学の卒業生として誇りを持ち、健康で意義のある人生を送られることを心から祈念し、私の告辞といたします。本日は誠にありがとうございます。

大 学

学位記授与式、医学会賞受賞式が挙行されました



学位記授与者と医学会賞受賞者、この日参加した教職員

3月24日(火)午後3時30分から枚方学舎4階中会議室において、山下敏夫理事長・学長はじめ伊藤誠二副学長、中邨智之大学院教務部長ら教職員が参加して、平成27年3月度学位記授与式と第14回関西医科大学医学会賞受賞式が挙行されました。学位記授与式では、14名に山下学長が直接学位記を授与。その後の挨拶で山下学長は「これまでの経験を活かして本学、ひいては日本の医学研究力向上を実現させて欲しい。と同時に、研究生生活の魅力の後進に伝えつつ、ひとつ上のレベルの医師として絶えず前進して欲しい」と述べ、授与者に『不断前進』の言葉を贈りました。

続いて挙行された医学会賞受賞式では、医学会賞(優秀賞)1名と医学会賞(奨励賞)2名の受賞者に、山下学長から表彰状が手渡されました。

第109回医師国家試験結果

「第109回医師国家試験」の結果が、3月18日(水)午後2時に厚生労働省から発表されました。本学の新卒受験者103名のうち、99名が合格し、合格率は96.1%でした。また、新卒及び既卒を合わせた本学の受験者116名のうち105名が合格し、合格率は90.5%でした。

今後は第110回に向け、合格率100%を目指し全学を挙げて対策に取り組んでいきます。

平成26年度卒業生進路

平成26年度医学部卒業生103名のうち、本学初期研修医は33名となりました。その他、国立大学病院10名、公立大学病院7名、私立大学病院8名、市中病院他39名などとなっています。

本学の初期研修医入職式は4月1日に行われました。詳しくは本誌卒後臨床研修センターのページをご覧ください。

平成27年度医学部入学試験結果



枚方学舎1階エントランスホールに掲示された合格者受験番号

平成27年度医学部の推薦、センター試験利用、一般前期(大阪・東京・名古屋・福岡の4会場で実施)、一般後期(大阪会場のみ)各入学試験の合計志願者数は4,433名でした。平成26年度の合計志願者数は4,246名で、全国的に志願者減の大学が多い中、本学は187名増加しました。

また、新たに導入したインターネット出願の志願者数合計は923名でした。

大 学

平成27年度 教務関係日程表

1学年	
4/4(土)	入学式
4/6(月)～8(水)	新入生オリエンテーション
4/9(木)・10(金)	合宿研修
4/13(月)	1学期開講
4/21(火)	新入生健康診断
5/7(木)～5/8(金)	休講(5月連休)
6/30(火)	創立記念日
7/6(月)～18(土)	試験期間
7/22(水)	1学期終講
7/23(木)～8/29(土)	夏季休業(期間内に早期体験実習)
8/31(月)	2学期開講
10/30(金)～11/1(日)	大学祭
12/7(月)～12/19(土)	試験期間
12/19(土)	2学期終講
12/21(月)～1/2(土)	冬季休業
1/4(月)	3学期開講
2/22(月)～3/5(土)	試験期間
3/2(水)	卒業式
3/7(月)～3/11(金)	地域医療実習
3/11(金)	3学期終講

2学年	
4/3(金)	新2学年ガイダンス
4/6(月)	1学期開講
5/7(木)～5/8(金)	休講(5月連休)
5/15(金)	解剖体追悼法要
5/20(水)	学生定期健康診断
6/30(火)	創立記念日
7/13(月)～17(金)	試験期間
7/17(金)	1学期終講
7/18(土)～8/29(土)	夏季休業
8/31(月)	2学期開講
10/30(金)～11/1(日)	大学祭
12/14(月)～18(金)	試験期間
12/18(金)	2学期終講
12/19(土)～1/2(土)	冬季休業
1/4(月)	3学期開講
2/8(月)～2/26(金)	試験期間
2/26(金)	3学期終講
3/2(水)	卒業式

3学年	
4/2(木)	新3学年ガイダンス
4/6(月)	1学期開講
5/7(木)～5/8(金)	休講(5月連休)
5/15(金)	解剖体追悼法要
5/21(木)	学生定期健康診断
6/30(火)	創立記念日
7/13(月)～24(金)	試験期間
7/24(金)	1学期終講
7/27(月)～8/21(金)	夏季休業
8/24(月)	2学期開講
10/30(金)～11/1(日)	大学祭
12/11(金)～18(金)	試験期間
12/18(金)	2学期終講
12/19(土)～1/2(土)	冬季休業
1/4(月)	3学期開講
1/18(月)～2/12(金)	配属実習
3/2(水)	卒業式
3/4(金)	3学期終講

4学年	
4/1(水)	新4学年ガイダンス
4/6(月)	1学期開講
5/7(木)～5/8(金)	休講(5月連休)
5/22(金)	学生定期健康診断
6/30(火)	創立記念日
7/13(月)	1学期終講
7/14(火)～8/21(金)	夏季休業
8/24(月)	2学期開講
10/30(金)～11/1(日)	大学祭
12/15(火)～18(金)	試験期間
12/18(金)	2学期終講
12/19(土)～1/2(土)	冬季休業
1/4(月)	3学期開講
1/4(月)～1/8(金)	試験期間
1/13(水)	共用試験CBT
2/20(土)	共用試験OSCE
2/22(月)～3/1(火)	プレクリニカル・クラークシップ
3/2(水)	卒業式
3/4(金)	3学期終講

5学年	
4月2日(木)	新5学年Student Doctor認証式・ガイダンス
4/6(月)	1学期開講
4/6(月)～3/11(金)	臨床実習
5/7(木)～5/8(金)	休講(5月連休)
5/21(木)	学生定期健康診断
※6/30(火)	創立記念日(臨床実習開講)
7/24(金)	1学期終講
7/27(月)～8/15(土)	夏季休業
8/17(月)	2学期開講
12/25(金)	2学期終講
12/28(月)～1/7(木)	冬季休業
1/8(金)	3学期開講
1/8(金)	クリニカル・クラークシップ総合試験
3/2(水)	卒業式
3/11(金)	3学期終講

6学年	
3/31(火)	新6学年ガイダンス
4/6(月)	1学期開講
4/6(月)～7/4(土)	臨床実習
5/7(木)～5/8(金)	休講(5月連休)
5/22(金)	学生定期健康診断
※6/30(火)	創立記念日(臨床実習開講)
7/18(土)	Advanced OSCE
7/18(土)	1学期終講
7/21(火)～8/21(金)	夏季休業
8/24(月)	2学期開講
8/24(月)～8/28(金)	総合試験①(内1日のみ)
8/31(月)～11/7(土)	まとめの講義と卒業試験
11/16(月)～11/18(水)	総合試験②
11/18(水)	2学期終講
11/19(木)	冬季休業開始(以降自習期間)
3/2(水)	卒業式

注)休講日及び休業期間においても試験・授業等を行うことがあります。

大 学

平成27年度大学関係役員

4月1日から、平成27年度の大学関係役員体制が次の通りスタートしました。

学長	友田 幸一	学生副部長	赤根 敦	アイソトープ実験施設長	藺田 精昭
副学長	伊藤 誠二		木村 穰	入試センター長	藤井 茂
	松田 公志	大学院教務部長	中邨 智之	病態分子イメージングセンター長	
教務部長	野村 昌作	附属図書館長	螺良 愛郎		伊藤 誠二
教務副部長	藤澤 順一	附属生命医学研究所長	木梨 達雄	医学教育センター長	木下 洋
	影島 賢巳	総合研究施設長	赤根 敦	学医	野村 昌作 (~4/30)
学生部長	楠本 健司	実験動物飼育共同施設長	上野 博夫		塩島 一朗 (5/1~)

平成27年度クラスアドバイザー

平成27年度のクラスアドバイザーが次の通り決定しました。

第1学年	平野 伸二(生物学)
	中川 学 (化学)
第2学年	山田 久夫(解剖学第一)
	田中 進 (解剖学第一)
第3学年	藤澤 順一(微生物学)
	竹之内徳博(微生物学)

第4学年	湊 直樹(胸部心臓血管外科学)
	岡田 隆之(胸部心臓血管外科学)
第5学年	福永 幹彦(心療内科学)
	西山 順滋(心療内科学)
第6学年	高橋 寛二(眼科学)
	山田 晴彦(眼科学)

慈仁会定期総会開催 新体制が発足



会場に詰めかけた保護者と、法人役員・教職員・関係者

4月4日(土)午後2時40分から、枚方学舎2階第4講義室において平成27年度慈仁会定期総会が開催され、山下敏夫理事長はじめ友田幸一学長ほか教職員、慈仁会・同窓会関係者など約150名の保護者が出席しました。

はじめに友田学長が、続いて野村昌作教務部長、楠本健司学生部長、四方伸明同窓会副会長が挨拶に立ちました。その後、榊徳子慈仁会委員長が議長に選出され、議事が進行。楠本学生部長から平成26年度事業報告及び決算、平成27年度事業計画及び予算が報告され、いずれも承認されました。また、役員が改選され、第1学年の委員を選任。総会終了後は3階学生食堂に場所を移し、懇談会が催されました。



大 学

研究費不正使用の防止は皆の問題 公的研究費に関わるコンプライアンス研修会



講演を行う國山氏

1月8日(木)午後3時から、枚方学舎加多乃講堂において新日本有限責任監査法人の國山しのぶ氏を招き、「公的研究費に関わるコンプライアンス研修会 ～研究者として、社会の養成に応えるために～」が開催されました。この日は、コンプライアンス推進責任者・伊藤誠二研究担当副学長の「STAP問題やその他の研究不正・研究費不正使用が発覚し、科学研究に対する社会の視線は厳しくなりつつある。また、研究不正の防止は研究者個人だけの問題ではなく組織全体の問題。全員が意識を高く持って取り組んで欲しい」との挨拶で開幕。

その後、公的研究費を取り巻く環境やその不正の実態、新たに制定された「公的研究費の管理・監査のガイドライン」の解説など、研究者とそれを支える職員が何に気をつけるべきか、実際に起こった事例を紹介しながら國山氏が講演しました。会場は詰めかけた教職員133名の熱気に包まれ、全員が研究不正・研究費不正使用の撲滅に向けて決意を新たにしていた様子でした。

大学院講義「臨床研究計画書の書き方 ～研究デザインとデータ解析～」開催



熱弁を振るう佐藤教授と、熱心に聴き入る受講者

2月18日(水)午後6時から枚方学舎2階第2講義室において、京都大学大学院医学研究科社会健康医学系専攻医療統計学講座佐藤俊哉教授を招き、本学外科学講座海堀昌樹准教授の司会で大学院講座が開催されました。この日のテーマは「臨床研究計画書の書き方 ～研究デザインとデータ解析～」なぜ研究計画書が必要なのか、何を盛り込めば良いのか、研究背景の必要性、解析方法や対象者数の設定方法など、佐藤教授が実際に携わった「ラクトフェリンのC型肝炎に関する用量反応試験」を例に解説しました。また、質疑応答では受講者から次々と具体的な質問が飛び出し、関心の高さを伺わせる一幕も。その後、追加でプレゼンテーションを佐藤教授が行うなど、大きな盛り上がりを見せた講義となりました。

「臨床系研究室セミナー・再生医療コンソーシアム研究会」開催



参加者と議論を交わす菌田教授(左)

3月18日(水)午後5時から枚方学舎2階第2講義室において、基礎研究から臨床研究へのトランスレーショナルな展開を目的とした「臨床系研究室セミナー・再生医療コンソーシアム研究会」が開催され、基礎社会系・教養系も含む25名の教職員が参加しました。

この日は内科学第一講座伊藤量基准教授が司会を務め、衛生学講座菌田精昭教授が「ヒト造血幹細胞の完全純化と階層制の解明」を、心療内科学講座阿部哲也講師が「慢性疼痛における疼痛閾値と心理的側面の関連について」を講演。発表後の質疑応答では、演者と参加した研究医長や大学院生、若手研究者との間に学問の枠を超えた学際的で活発な議論が生まれ、大きな盛り上がりを見せて閉会の時間を迎えました。

大 学

上野教授の提供した画像が、国立科学博物館の特別展で展示



Rainbow Miceの展示画像を見学する一般来場者

平成26年10月28日(火)から平成27年2月22日(日)にかけて東京都台東区にある国立科学博物館上野本館で開催された特別展「ヒカリ展」において、緑色蛍光タンパク質(GFP)の発光現象をもたらした医学・生物学分野の研究の進展が紹介され、病理学第一講座上野博夫教授の提供したRainbow Mice画像が展示されました。

今回の特別展は星やオーロラ、蛍光鉱物、発光動植物など自然界の“ヒカリ”をテーマに取り上げ、最先端の光研究を分かりやすく紹介しながら“光の正体”に迫るもの。医学・生物学の研究を大きく進化させた緑色蛍光タンパク質は、色鮮やかで目を引く新奇性だけでなく学術的な意義深さも高く評価され、展示品に選ばれました。来場者は普段縁のない学術研究の一端に触れ、物珍しそうにRainbow Miceの画像を見ていました。

臨床の最前線で大いに学べ—— Student Doctor認証式を挙



5学年学生に認定証を授与する友田学長

4月2日(木)午前9時から枚方学舎加多乃講堂において、第5学年へ進級する学生115名に附属病院での参加型臨床実習の受講を認める『Student Doctor 認証式』が挙行されました。冒頭で挨拶に立った友田幸一学長は、「患者さんから見ればみなさんも医師と同じ。何より患者さんのために頑張りたい」と述べ、学生に認定証を授与。一人ひとりに声をかけていました。

その後は野村昌作教務部長、附属枚方病院澤田敏病院長、附属滝井病院岩坂壽二病院長が厳しい言葉も交えながら学生を温かく激励。出席した学生たちは、一様に真剣な表情でこれからの臨床実習に向けて決意を新たにしている様子でした。最後は学生代表が誓いの言葉を宣言し、認証式は無事に終了しました。

画像診断支援研究会と病態分子イメージングセンターが年次集会を合同開催



詰めかけた参加者を前に、講演を行う池浦講師

2月27日(金)午後5時から枚方学舎2階第4講義室において、第1回関西医科大学画像診断支援研究会と第3回病態分子イメージングセンター年次集会が合同開催されました。この日のイベントは二部制で行われ、第一部は腎泌尿器外科学講座吉田健志助教の司会で進行。内科学第三講座池浦司講師が「5-aminolevulinic acid (5-ALA)による膀胱癌の質的診断」を、放射線科学講座宇都宮啓太講師が「アイソトープ実験施設(Imaging room)での研究について」を、それぞれ講演しました。

代わって外科学講座海堀昌樹准教授が司会を務めた第二部では、大阪大学サイバーメディアセンター黒田嘉宏准教授が「次世代手術ナビゲーションのための実時間臓器変形と可触化技術」を、大阪電気通信大学総合情報学部情報学科登尾啓史教授が「肝臓手術ナビゲーションシステムの開発」を講演。画像技術を用いた低侵襲で正確な診療の実現を目指す最先端研究を紹介し、参加者は興味深く耳を傾けていました。

大 学

平成25年度内閣府、文部科学省、経済産業省、(独)科学技術振興機構 委託費等採択一覧

(単位:円)

新規/継続	事業名	所管組織等	研究課題名	研究代表者等	共同研究者、研究分担者	直接経費	間接経費
継続	内閣府 最先端・次世代研究開発支援プログラム	内閣府	組織幹細胞の次世代イメージングを通じた治療標的膜蛋白質の同定と新しいがん治療法の開発	病理学第一講座 上野 博夫 教授	—	37,270,000	11,181,000
継続	内閣府 最先端・次世代研究開発支援プログラム	内閣府	生体組織の伸縮性を生み出す仕組みの研究	薬理学講座 中邨 智之 教授	—	34,335,000	10,300,500
継続	文部科学省 研究開発施設共用等促進費補助金(橋渡し研究支援)	文科省	低侵襲手術支援システムの実用化開発と臨床研究	浜松医科大学	耳鼻咽喉科・ 頭頸部外科学講座 友田 幸一 教授	350,000	—
継続	文部科学省 科学技術試験研究委託事業 次世代がん研究戦略推進プロジェクト	文科省	がん幹細胞を標的とした根治療法の開発	大阪大学	衛生学講座 菌田 精昭 教授	1,818,182	181,818
新規	文部科学省 科学技術試験研究委託事業	文科省	経頭蓋磁気刺激(TMS)とモノアミン神経系動態のモニタリングに基づく脳幹—大脳皮質ネットワークダイナミクスの解明と磁気刺激治療の最適化	生理学第二講座 中村 加枝 教授	大阪大学、東北大学	13,273,077	3,981,923
新規	大学共同利用機関法人自然科学研究機構 新分野創成センターブレインサイエンス研究分野プロジェクト	大学共同利用機関法人自然科学研究機構	霊長類の社会的脳機能の個体差に関する統合的研究	生理学第二講座 磯田 昌岐 准教授	—	2,000,000	—
継続	(独)科学技術振興機構 戦略的創造研究推進事業 CREST	JST	接着制御分子破綻による自己免疫発症機構とIgG4関連全身疾患との関連解析	附属生命医学研究所 分子遺伝学部門 木梨 達雄 教授	内科学第三講座 岡崎 和一 教授	21,515,000	6,454,500
継続	(独)科学技術振興機構 戦略的創造研究推進事業 さきがけ	JST	ドパミン—セロトニン相互抑制による報酬・嫌悪情報処理機構	生理学第二講座 中村 加枝 教授	—	8,600,000	2,580,000
継続	(独)科学技術振興機構 戦略的創造研究推進事業 さきがけ	JST	質量顕微鏡法による神経伝達物質のイメージング	医化学講座 矢尾 育子 准教授	—	3,000,000	900,000
新規	(独)科学技術振興機構 研究成果展開事業 A-STEP探索タイプ	JST	間葉系幹細胞を用いるヒト造血幹細胞の体外増幅システムの開発	衛生学講座 菌田 精昭 教授	—	2,307,693	692,307
新規	(独)科学技術振興機構 研究成果展開事業 A-STEP探索タイプ	JST	TAK1—JNK経路を標的とした新規免疫制御薬の開発	附属生命医学研究所 生体情報部門 松田 達志 准教授	—	1,307,693	392,307
継続	(独)科学技術振興機構 研究成果展開事業 A-STEP探索タイプ	JST	ヒト造血幹細胞の陽性分子マーカーの同定と特異抗体産生システムの開発	衛生学講座 菌田 精昭 教授	—	857,693	257,307
継続	(独)科学技術振興機構 研究成果展開事業 A-STEP探索タイプ	JST	高齢者の生活習慣病・認知症予防改善作用を期待される新リン脂質(PI)食材の開発(ヒト臨床テストによる効果の検証)	薬理学講座 北川 香織 助教	—	998,231	299,469
継続	(独)科学技術振興機構 研究成果展開事業 A-STEP探索タイプ	JST	抗HTLV—I薬の開発研究	長崎大学	微生物学講座 竹之内 徳博 准教授	828,000	248,000
継続	(独)科学技術振興機構 研究成果展開事業 A-STEPシーズ顕在化タイプ	JST	巨大母斑(黒あざ)患者組織を脱細胞化し皮膚再生に使用する新規加圧処理治療法の開発	形成外科学講座 森本 尚樹 講師	ニプロ株式会社 (プロジェクトリーダー)	223,000	66,900
継続	(独)科学技術振興機構 研究成果展開事業 先端計測・機器開発プログラム開発成果の活用・普及促進	JST	顕微質量分析装置の活用・普及促進	浜松医科大学	医化学講座 矢尾 育子 准教授	300,000	90,000
継続	(独)科学技術振興機構 戦略的国際科学技術協力推進事業	JST	内向き整流性K+チャンネルへのバイオメディシン	生理学第一講座 岡田 誠剛 准教授	メキシコ国立自治大学	3,640,000	360,000
継続	経済産業省 医工連携事業 産業化推進事業(課題解決型医療機器等開発事業)	経産省	高性能骨導素子を用いた骨導補聴器の開発 ※民間企業3社と本学との共同推進プロジェクト	耳鼻咽喉科・ 頭頸部外科学講座 友田 幸一 教授 (プロジェクトリーダー)	・形成外科学講座 楠本 健司 教授 ・公衆衛生学講座 三宅 眞理 講師	59,312,252	—

病 院

もっと、地域に寄り添う病院へ 香里病院の病床数を199床に減床



さらに身近になった香里病院

2月1日(日)から香里病院は病床数を1床減床し、199床となりました。これに伴い、紹介状を持っていない患者さんでも保険外併用療養費制度に基づく選定療養費(2,160円)が不要となり、今まで以上に受診しやすい病院へと進化。寝屋川市・枚方市の方々はもちろん、周辺地域にお住まいの方々の健康な生活を守る地域密着型病院として、より一層努力していきます。

なお、減床した1床は附属枚方病院へ移入し、枚方病院は751床体制となりました。

附属枚方病院

東京女子医科大学の11名が来院 附属枚方病院で日本私立医科大学協会相互ラウンド



GICUを視察する医療安全担当者

1月9日(金)附属枚方病院において、日本私立医科大学協会医療安全相互ラウンドが実施され、東京女子医科大学病院の医療安全対策部門担当副院長・林和彦氏をはじめ、感染制御部門の担当者5名と医療安全部門の担当者6名が来院しました。

はじめに澤田敏病院長から挨拶が、続いて自己評価表に基づく質疑応答が行われました。その後は感染制御・医療安全の二手に分かれ、感染制御部門担当者は7N病棟やNICU、細菌検査室など、医療安全部門担当者は6N病棟、GICU、がん治療・緩和センターなどを順に視察しました。

最後に13階合同カンファレンスルームで講評が行われ、感染制御担当者からは「細菌検査室の設備が整っていてよい」など、医療安全担当者からは「研修が月1回程度実施されており、充実している」などの声上がり、ラウンドは無事終了しました。

救急隊員に搬送先選択の重要性語る 「附属枚方病院循環器救急フォーラム」開催



搬送病院選択の重要性について講演する前羽助教(中央奥)

2月25日(水)午後6時から枚方学舎2階第4講義室において、附属枚方病院循環器内科主催の「循環器救急フォーラム」が開催され、枚方寝屋川消防組合をはじめ近隣の消防本部に所属する約100名の救急隊員が参加しました。

内科学第二講座塩島一朗教授による開会あいさつの後、内科学第二講座神島宏准教授が座長を務め、同講座向井悠任期付助教が「急性心筋梗塞の緊急カテーテル治療中にno reflowとなった一例」と題する症例検討を実施。続いて同講座前羽宏史助教が「急性冠症候群患者はどのような施設へ搬送されるべきか」と題する講演を行い、「設備・体制・技術が胸部症状患者の生命予後に大きな影響を与える。救急隊が適切な搬送先を選択することが重要」と語り、救急隊員は熱心に聞き入っていました。

講演終了後には意見交換会も行われ、救急隊員と医師が活発に交流。今後も連携を深め、地域医療に貢献していくことを確認し合いました。

その時、医療スタッフはどう動くべきか

“災害”をテーマに教育講演会を開催



参加者からの質問に答える石松氏

1月22日(木)午後5時30分から、附属枚方病院13階講堂において聖路加国際病院石松伸一副病院長・救急部部長を招き、「災害時の病院の役割」と題する教育講演会が開催されました。石松氏は、平成7年3月に起きた地下鉄サリン事件において最も多くの傷病者を受け入れ、文字通り最前線となった聖路加国際病院で活躍。この日はそうした生々しい体験談をもとに大規模災害時の病院が果たす役割、問題点について講演しました。特に、災害への備えとして『先入観を持たない』『自分の身は自分で守る』『傷病者の身元確認を徹底する』を提唱し、参加した教職員は熱心に聞き入っていました。

その後の質疑応答では「災害に対する職員の意識付け」や「災害訓練の様子、方法」について質問が飛び、講演会は予定の時間を大幅に越える盛り上がりを見せました。

附属滝井病院

「第6回よくわかる肝臓病セミナー」開催

最新治療法から食事の注意まで解説



C型肝炎について解説する村田助教と、耳を傾ける参加者

3月14日(土)午後2時から、守口文化センター・エナジーホールにおいて市民公開講座「第6回よくわかる肝臓病セミナー」が開催されました。附属滝井病院關壽人副病院長(肝臓病センターセンター長)の挨拶でスタートしたセミナーは、枚方市立ひらかた病院本合泰副病院長司会のもと、松下記念病院消化器科長尾泰孝副部長が「B型肝炎の治療(治療薬を知る)」を、滝井病院消化器肝臓内科村田美樹助教が「C型肝炎の治療(治療薬を知る)」を、滝井病院栄養管理部細見恭子管理栄養士が「肝炎・肝硬変の食事を知る」を、それぞれ講演しました。

その後の質問コーナーでは、滝井病院消化器肝臓内科中橋佳嗣講師の進行で、事前に回収した質問に対して演者が回答し、参加者からは「大変わかりやすかった」などの感想が寄せられ、好評を博しました。



参加者から寄せられた質問に答える、演者



イベントの様子を告知するチラシ

第2回健康まちライブラリー開催



本を通じたコミュニケーションを楽しむ参加者

2月12日(木)午後5時30分から附属滝井病院本館6階臨床講堂において、附属滝井病院透析センターとまちライブラリーの共催で「第2回健康まちライブラリー」が開催され、院外から8名、院内から25名が参加しました。これは、本を通じてコミュニケーションを図るべく、平成25年5月に透析センターに併設された「まちライブラリー」の取り組みです。この日は各自が持ち寄った「人生が楽しくなる本」を使った自己紹介の後、内科学第二講座西川光重教授が「糖尿病をやっつけろ!!」と題して、食事療法を中心とした糖尿病の予防と対策を講演しました。

今後は4月25日(土)「まちライブラリー@もりのみやキューズモールBASE」のオープン、及び「植本祭」開催にあたり附属滝井病院透析センター正木浩哉副センター長がワークショップに参加する予定です。また、次回の健康まちライブラリーは「OSAKA BOOK FESTA2015」に合わせ、5月14日(木)に開催予定です。

“ハラスメントを予防しよう” 附属滝井病院で安全衛生講習会を開催

2月23日(月)午後5時30分から、附属滝井病院本館6階臨床講堂において安全衛生講習会が開催されました。今回は「身近にある職場のハラスメント ～その対処と予防について～」と題し、本法学法人事務局健康管理部内藤ゆみ臨床心理士が講演しました。様々なハラスメントの中でも特に「職場の3大ハラスメント」とされる、「セクシャルハラスメント」「パワーハラスメント」「モラルハラスメント」について詳しく解説しました。また、それぞれのハラスメントについて対処法や、予防に向けた取り組みを紹介し、一人で抱え込まず、職場全体で取り組むことが大切と話しました。

この日は講演終了後も熱心に質問する職員の姿が見られ、参加者はハラスメントに対する意識をより一層高められた様子でした。

夜間を想定した消防訓練を実施 職員の防災意識を高める



火元に見立てたランプに向かい、ホースの筒先を構える看護師

1月29日(木)午後3時30分から、夜間に附属滝井病院本館6階6E病棟の湯沸し室から出火、当直の看護師らが消火や避難誘導にあたるという想定で、守口消防署員立会いのもと、約40名の職員が参加して消防訓練を実施しました。

今回から、守口消防署の指導により、より実情に即した訓練となり、訓練参加者は皆真剣な面持ちで担送患者の搬送、消火栓を使つての消火活動、避難誘導等に取り組み、検証した消防署員からも職員の行動は概ね良好との評価をいただきました。職員の防災意識を大きく高めた訓練となりました。

附属看護専門学校

理想の看護を目指して、81名が入学 平成27年度附属看護専門学校入学式挙行

4月3日(金)午前10時から枚方学舎加多乃講堂において、平成27年度附属看護専門学校入学式が挙行されました。この日は山下敏夫理事長はじめ友田幸一学長、澤田敏常務理事(附属枚方病院病院長)や附属枚方病院安田照美看護部長など、多数の来賓と保護者、在校生が出席。81名の新生(36期生)に歓迎と祝福の気持ちを表しました。

式典は、校歌斉唱で開始。新生氏名報告の後、附属看護専門学校岡崎和一学校長が式辞を述べました。続いて祝辞に立った山下理事長は「考えるより歩め」の言葉を贈呈。友田学長、安田看護部長もそれぞれ来賓祝辞を述べました。新生の宣誓、在校生歓迎の辞、新生挨拶と続いた式典は無事に終わり、新生はこれからの学校生活に思いを馳せながら会場を後にしました。



36期生を前に、式辞を述べる岡崎学校長

入学式式辞

学校長 岡崎 和一

本日は入学おめでとうございます。

関西医科大学附属看護専門学校の教職員を代表してお祝いと歓迎の言葉を述べさせていただきます。また、皆さんの勉学を今日まで支援し、励ましてこられたご両親をはじめ、ご家族先生方にも心からお祝いを申し上げます。併せまして、ご来賓の皆様方には、本日はご多忙のところ、新生のためにご臨席を賜り、厚くお礼申し上げます。

関西医科大学は昭和3年(1928年)に創立された輝かしい歴史と伝統をもつ私立医科大学であります。その附属看護専門学校である本校も、昭和7年(1932年)に附属看護婦養成所として開設され、今年、83年目を迎える歴史ある看護専門学校です。この3月までに4,316名という実に多くの正看護師を世に送り出しております。本年は36期生として女子77名、男子4名、計81名を本学に迎えました。

本校は一昨年8月に大阪市内から枚方・牧野の地に移転しました。これを機に牧野の地がゆかりとなるように校歌「ともしび」を一部変更しましたが、みなさんは入学式でこの校歌を斉唱する最初の学年となります。新生の皆さんは、本日からこの伝統ある関西医科大学の看護学生として、誇りと責任を持って是非、充実した学生生活を過ごしていただきたいと思っております。

本学への入学に際し、皆さんに一言お話をさせて頂きたいと思っております。さて、今日から入学されますあなた方に私から四つのKをお送りしたいと思います。一つ目のKは勤勉、二つ目は謙虚、三つめは国家試験、そして四つ目が希望です。これからの三年間忘れるこ

となく持ち続けて下さい。

看護という文字を調べてみますと「看」は手と目に従う、つまり目の上に手をかざして望み見ること、また「護」は注意深く守護する、鳥を手にとって祝詞をあげ鳥の様子を注視し、占って守ることをいうとあります。この様に看護師には、広い視野を持ちつつ目の前の傷や病を負った人々を支えていくという使命があります。

振り返ってみますと阪神大震災から20年、東日本大震災から4年と私たちはまだまだ自然との闘いの真ただ中にいます。皆さんが敬愛するナイチンゲールはクリミア戦争で傷ついた人々の中に身を投じ、その歴史の狭間でまさに戦場の女神として働きました。統計学者でもあった彼女は勤勉にそして環境にたいして謙虚にいつか戦争のない世界をと希望して生涯を捧げました。さすがに国家試験に苦労したという話は書かれてはいませんが、今日からあなた方も一人ひとりが看護の世界の歴史を日々築き上げてゆく立場であるという大きな自負を持って下さい。

皆さんは、牧野の地での勉学となります。牧野は関西医大の開学の地でもありまた本学も昭和47年から8年間牧野をまなび舎としており我々の故郷であります。この、緑豊かな学舎を訪れる度に、歴史と伝統を感じ心穏やかになる地です。今日から希望に向かって歩み始めて下さい。そして健康に気をつけながら、これからの3年間、日々勉学に励んで下さい。

皆さんの将来を託された立場にある私たち教職員は全力であなた方を支えるべく心をひとつにしておりますことをお伝えして、私の式辞としたいと思います。

本日は本当におめでとうございます。

平成27年度附属看護専門学校入学試験結果

附属看護専門学校の平成27年度一般入学試験が、牧野校舎にて実施されました。前期は1月9日(金)に実施され、122名(昨年88名)が志願して46名(男子4名)が合格。後期は2月17日(火)に実施され、58名(昨年60名)が志願して17名(男子1名)が合格しました。

附属看護専門学校 平成26年度卒業式を挙行了しました

3月5日(木)午前10時から、枚方学舎加多乃講堂において附属看護専門学校卒業式が、山下敏夫理事長はじめ澤田敏常務理事、岡崎和一学校長他多数臨席のもと挙行されました。式典は卒業生入場後、校歌斉唱でスタート。岡崎学校長から72名の卒業生一人ひとりに、卒業証書が授与されました。その後、岡崎学校長の式辞や山下理事長の来賓挨拶、附属枚方病院安田照美看護部長の祝辞があり、各賞の表彰も行われました。

また、在校生代表の送辞に続いて卒業生答辞に立った長穂香さんは、涙ながらに3年間の思い出と教職員・保護者、そして同窓生への感謝の言葉を述べ、会場は感動に包まれました。最後は全員で「仰げば尊し」「蛍の光」を斉唱し、卒業生は社会へと巣立って行きました。



涙混じりに答辞を読み上げる卒業生代表(左)と、岡崎学校長

卒業式式辞

学校長 岡崎 和一

本日ここに無事卒業の日を迎えられた第33期生72名(女子67名、男子5名)の皆さん、おめでとうございます。

関西医科大学附属看護専門学校の教職員一同心からお祝い申し上げます。そしてこれまで支えてこられたご家族・保護者の皆様に心よりお慶び申し上げます。また卒業生を学業の側面から導いてくださった実習機関の関係者の方々、ご多用の中ご臨席賜りましたご来賓の皆様にも深くお礼申し上げます。

さて、看護師としてのスタートを前に、学校長として一言お話をさせていただきます。

卒業生の皆さんは本校に入学以来、良き看護師となるべく日々勉学に励み、看護に必要な知識・技術の習得を目指すとともに、患者さんに対するいたわりのこころを育ててこられたことと思います。本日の白衣姿は、これから歩む看護の職業人としての覚悟と誇りの象徴であるとともに、社会が皆さんの力を必要とする証であることあらためて自覚して下さい。

しかしながら、実際に看護師生活がスタートすると学生時代と異なり、そこには多くの苦悩や挫折が待ち構えているかと思っています。学生時代には、ある意味で勉学など自分自身に対する責任を全うすればよかったのですが、これからは医療人として、深刻な病気や悩みを持つ患者さんと積極的に関わることにより生じるストレス、あるいは現代医学をもってしてもどうしても

ならないジレンマなど、時に厳しい現実も待っているかと思っています。皆さんが目指した看護という仕事は、人と人との関わりの中で行われますので、他人を理解し、時には共感し協調する姿勢は極めて大切で、その繰り返しで人間関係スキルの向上とともに、人として成長させてくれます。その過程で人に奉仕して感謝されることこそ大きな喜びとなるだけではなく、看護師としての仕事を全うする糧(かて)ともなります。是非、初心を忘れず、力強い、かつ心優しい看護師に成長してもらいたいと願っています。

今日、皆さんはそれぞれの描く理想の看護師像を胸に羽ばたくわけですが、同時に社会人としても旅立つわけです。はなむけに「よき医療人の前によき社会人たれ」という言葉を贈りたいと思います。医療・看護に対する知識・技能とともにコミュニケーション能力を育むことは、良き看護師になるために勿論大切ですが、「きちんと挨拶する」「時間を守る」などけじめや節度をわきまえた大人としての振る舞いに気をつけて、頑張ってください。

最後になりますが、今日までご指導くださった諸先生方、並びに関係機関、関係施設のかたがたに厚く御礼を申しあげ、4月から始まる皆さんの看護師としての輝く未来と今後の成長に期待して、私の式辞と致します。

第104回看護師国家試験結果

3月25日(水)午後2時、厚生労働省から第104回看護師国家試験の合格発表があり、本校からは77名が受験して74名が合格しました。合格率は本校が96.1%で、全国は90.0%、大阪府は89.6%でした。

卒後臨床研修センター

平成27年度採用臨床研修医入職式・オリエンテーション実施



平成27年度採用の初期臨床研修医

4月1日(火)午前11時から附属枚方病院13階合同カンファレンスルームにおいて、平成27年度採用臨床研修医入職式が挙行されました。式典では、附属枚方病院澤田敏病院長と附属滝井病院岩坂壽二病院長が祝辞を述べた後、卒後臨床研修センター金子一成センター長が登壇。本年度採用された枚方病院所属38名および滝井病院所属8名の研修医に辞令と白衣を手渡し、祝辞を述べました。

また、入職式に引き続き4月10日(金)までの日程でオリエンテーションを実施。期間中の4日(土)・5日(金)には、ホテルコスモスクエア国際交流センターにおいて1泊2日のワークショップも行われました。研修医たちは濃厚な日程を消化し、診療現場で即戦力となることを目標に、各課題に取り組みました。

臨床研修修了式挙行



記念撮影に収まる参加者一同

3月27日(金)午後4時から、附属枚方病院13階合同カンファレンスルームにおいて臨床研修修了式が挙行されました。これにより、平成25年度採用48名の臨床研修医が、3月末で通算2年間の初期臨床研修を修了しました。式典では、卒後臨床研修センター金子一成センター長はじめ附属枚方病院澤田敏病院長、附属滝井病院岩坂壽二病院長のほか、多数の指導医が見守る中、澤田病院長及び岩坂病院長から一人ひとりに修了証が授与されました。

大学、附属看護専門学校、附属3病院合同看護管理者研修会



講演する高橋統括看護部長

1月29日(木)午前9時から附属枚方病院13階合同カンファレンスルームにおいて、聖マリアンナ医科大学高橋恵統括看護部長・ナースサポートセンター長を招聘し、「看護職としての社会人基礎力の育て方～看護管理者に求められること～」をテーマとした研修会が開催されました。看護管理者52名が参加し、世代の特徴を踏まえた社会人基礎力の育成について学び、有意義な研修会となりました。

附属3病院合同看護副師長研修会



ワークに取り組む参加者

1月24日(土)午前9時から附属枚方病院13階合同カンファレンスルームにおいて、南山大学人文学部心理人間学科津村俊充教授を招聘し、「ファシリテーターとしての役割と手法」をテーマに研修会が開催され、59名の看護副師長が研修に参加しました。この日は効果的なファシリテーターの態度やスキルなどを体験学習し、有意義な研修会でした。

附属3病院合同シスター研修会



研修会の様子

1月25日(日)午前9時から附属枚方病院13階講堂において、「新人を育てながら自分も育つ」をテーマに、新人看護職員の身近な相談役を担うシスター96名を対象とする研修会が開催されました。第1部では、附属枚方病院櫻井知賀看護副部長が新人看護職員研修制度やシスターの役割について講演。第2部では、公益社団法人日本看護協会看護研修学校教育研究部渋谷美香部長を招聘し、指導方法や指導者としてのあり方などの講演があり、濃厚な研修会となりました。

メディア情報

教職員メディア情報

新聞・雑誌・テレビ等マスコミの取材、テレビ出演、また記事を掲載された教職員の方々を紹介します。

(主に平成27年1月1日～3月31日 ※判明分のみ)

耳鼻咽喉科・ 頭頸部外科学講座 朝子 幹也 准教授	NHK大阪放送局 「NEWSテラス KANSAI」 (1月23日)	特集花粉症対策最新事情のコーナーに出演し、昨年からの保険適用となった舌下免疫療法についてコメントしました。
眼科学講座 松山 加耶子 助教	毎日新聞 (1月24日夕刊)	ネパールで実施中の白内障治療医療支援ボランティアを紹介する記事が掲載されました。
法医学講座 赤根 敦 教授	毎日新聞 (1月29日朝刊)	司法解剖後の血液や臓器の保存の有無について、コメントが掲載されました。
外科学講座 海堀 昌樹 准教授	Webマガジン 「週刊がん」 (1月29日更新)	手術ができないと診断された「進行」「超進行」肝細胞がんの最新治療法が紹介され、インタビュー記事が掲載されました。
耳鼻咽喉科・ 頭頸部外科学講座 朝子 幹也 准教授	読売テレビ 「おはよう!ドクター」 (2月1日)	「国民病・花粉症の最前線」と題して、花粉症の症状やどういう人に症状が出やすいかを解説し、予防法と最新の治療法である舌下免疫療法について紹介しました。
外科学講座 海堀 昌樹 准教授	夕刊フジ (2月6日)	肝臓疾患領域の治療におけるフロントランナーとして取り上げられ、「手術室だけの付き合い」ではない総合肝臓医として紹介されました。
健康科学教室 木村 穰 教授	HEALTH PRESS (2月9日更新)	認知行動療法をベースとすることで頑張らずに長く続けられる減量法「メンタルダイエット」のメリットや進め方が紹介され、コメントが掲載されました。
公衆衛生学講座 西山 利正 教授	産経新聞 (2月25日夕刊)	海外駐在や旅行・留学など渡航前後における健康対策を全般的に扱う「渡航医学」が取り上げられ、インタビュー記事が掲載されました。
耳鼻咽喉科・ 頭頸部外科学講座 小西 将矢 助教	毎日新聞 (3月2日朝刊)	耳の日(3月3日)にちなんで開催された「第19回耳の日セミナー」の様子を紹介する記事が掲載され、講演『放っておくと怖い耳の病気』が紹介されました。
外科学講座 海堀 昌樹 准教授	週刊朝日MOOK 「手術数でわかる いい病院2015」 (3月10日発売)	がんの治療法の一つとして標準的術式となっている腹腔鏡下手術の特徴や長所、短所を解説する記事の中で、肝がんの腹腔鏡下手術の提供写真が掲載されました。
健康科学教室 木村 穰 教授	週刊朝日MOOK 「手術数でわかる いい病院2015」 (3月10日発売)	『生活習慣病を治す「いい病院」の条件』を解説したコーナーの中でインタビュー記事が掲載され、「薬に頼らず心に注目した」治療法が紹介されました。
眼科学講座 高橋 寛二 教授	NHK-Eテレ 「チョイス@病気にな ったとき～モノがゆ がんで見えるとき～」 (3月14日)	失明を引き起こす加齢黄斑変性の原因や症状、簡単なチェック法、最も有効な治療法とされる抗VEGF薬注射、予防法などを解説しました。
外科学講座 海堀 昌樹 准教授	週刊朝日 (3月20日発行)	監修に参加した「がん・心臓病の最新治療キーワード」が掲載され、がんの内視鏡治療や腹腔鏡下手術など、最新の治療法が紹介されました。

*このコーナーは主要な放送局、新聞、雑誌の掲載情報が対象ですが、研究成果に関する記事は、その限りではありません。

関西医科大学同窓会研究助成

関西医科大学同窓会理事・一般社団法人加多乃会監事 **北尻 雅則** (45回生)

関西医科大学同窓会、一般財団法人加多乃会の事業のひとつとして研究助成があります。研究助成には、関西医科大学同窓会50周年記念事業の一環として創設された「加多乃賞」をはじめとして、現在9賞17種類あります。受賞対象者数は40名を超え、賞金総額は2,200万円超で、その多さは全国医科大学の中でもトップクラスと考えられます。

「加多乃賞」は昭和58年に設立された同窓会創立50周年記念基金に加多乃会研究奨励金を加えたものを基にして始められたもので、優秀な研究業績を期待される個人または団体に贈与されます。この「加多乃賞」を皮切りに、10年後の平成5年から平成20年の15年間に、大原一枝同窓会名誉会長(4回生)の「遺言状のすすめ」(おとづれ68号、72号、73号、121号)の効果もあり、8人もの先輩方から多額の寄贈がありました。寄付を頂いた多くの先生方は、ご自身が十分な医学教育を受けることも、十分な研究をすることもできず無念の思いがあったために、後輩には十分な医学研修、研究ができるようにしてほしいという思いを持たれていましたので、みなさまのご意向をくみ、寄贈いただいた先生方の姓名を冠した同窓会研究助成賞が設立されました。それらは、優秀論文に対する「佐々木千枝子賞」、研究助成・医療功労賞として「森本園子賞」、若手優秀研究者に対する「北西壽子賞」、教職員の優れた論文あるいは大学院生・医学部学生の国外派遣、臨床実習の助成として「櫻根啓子賞」、海外留学・出張の助成として「藤原登美子賞」、医学・看護学の研究助成として「塩崎安子賞」、医学・医療・福祉振興のためと将来有為の人材の育成に資することを各々目的とした「和田喜代子賞」ならびに「丹家雛子賞」です。

「櫻根啓子賞」「和田喜代子賞：3)和田喜代子奨励賞」及び「丹家雛子賞：3)丹家雛子交付奨学金」は関西医科大学関係者(学生、大学院生、教職員等)のみが交付対象ですが、その他についてはそれ以外の方も応募でき交付対象が広く設けられています。

同窓会へ寄贈されたお金は、法人格を持つ加多乃会が管理し、研究助成賞の運用については同窓会が担当しています。櫻根啓子賞については、櫻根啓子先生から関西医科大学に寄贈された寄付金の一部を基金として「櫻根啓子賞」を設定し、資金管理は関西医科大学法人事務局財務部が行い、その運用を関西医科大学同窓会が委託され受け持っています。各賞は毎年2月に募集し、4月に11名の審査員で構成される研究助成審査会で審査され、受賞者を決定しています。年々応募者が増加し、審査が厳しくなっていますが、先生方の研修、研究の一助になり、関西医科大学発展のお役に立てればと思い、寄贈された先輩の意向を尊重して今後も運用していきたいと思っておりますので、みなさまには奮って関西医科大学同窓会研究助成に応募していただきたいと思っております。

(「おとづれ」140号参照)

メディア情報

大学基準協会から「大学基準適合」の認定を受けました



本学に届いた認定証

本誌既報(Vol.28)の通り、本学は学校教育法に定める7年毎の認証評価を平成26年度に公益財団法人大学基準協会にて受審しており、書面評価及び「大学関係者との意見交換」「教職員・学生とのヒアリング」「施設見学・授業参観」などの実地調査が行われました。

その結果同協会において「大学評価結果(委員会)案」が策定され、3月に「大学評価結果」が通知されました。2回目の「大学基準適合」認定を受けることができました。認定期間は2022年(平成34年)3月31日(木)までで、評価(認証評価)結果の詳細は同協会ホームページをご覧ください。

塚原勇前理事長(名誉教授)が逝去されました



在りし日の塚原前理事長

4月2日(木)午前10時8分、本学前理事長塚原勇名誉教授が逝去されました。享年は92。葬儀は4月7日(火)、故人の遺志により近親者のみでしめやかに営まれました。

塚原前理事長(名誉教授)は、大正12年1月11日に生誕。昭和20年京都帝国大学医学部医学科を卒業され、各所で活躍の後昭和41年に眼科学講座教授として本学へ着任。昭和50年に一度退職されました。昭和60年には学長として復帰し、昭和63年から理事長を兼務。本学の教育・診療・研究の発展に尽力されました。特に、理事長へ就任してからは欧米先進国並みの医学教育を取り入れた教育改革に邁進された他、南館・北館の竣工をはじめとする当時本院であった附属病院(現附属滝井病院)の整備、現在の関西医科大学附属枚方病院建設など、多くの貢献をされました。

ここに、生前の多大なる功績を称え、安らかなご永眠をお祈りいたします。

編集後記

随分と使い古された言い回しではありますがこの時期、経験を重ねるにつれ納得感が強くなるフレーズがあります。それは、“1月は行く、2月は逃げる、3月は去る”。今年も、年齢と比例して時間経過を早く感じるようになるのと相まって、例年以上に「あっ」という間に「光陰矢の如く」過ぎ去ったような気がします。

とはいえ次々とやってくる仕事に追われていると、思わぬミスに見舞われるわけで、まさに“急いで仕事は仕損じる”。やはり、忙しい時ほど大切なのは“忙中閑あり”の心ではなからうかと考える次第です。

今の私に必要なのは、“過ぎて改めざるを過ちと謂う”の言葉通り過ぎ去ったこの数ヶ月を振り返り、失敗を自省すること。そして“4月は心機一転リスタート、5月は剛毅果敢にチャレンジ、6月は無我夢中でアクション”していきたいと思えます。(一)

関西医科大学広報は、本学HPでも閲覧できます

この広報誌は創刊号から最新号まで、本学HPでも公開しています。過去の記事をご覧したい場合は、本学HPトップページから右下のリンク「関西医科大学広報」をクリックしてください。

ご意見・ご感想をお待ちしています

「関西医科大学広報」についてのご意見・ご感想は、下記奥付に記載してある連絡先に郵送いただくか、メールアドレス、電話番号までお願いします。皆様のご意見をお待ちしています。

関西医科大学広報 Vol.29

発行 学校法人 関西医科大学
編集 法人事務局総務部広報課
〒573-1010 大阪府枚方市新町2-5-1
TEL 072-804-0101 (代表)
FAX 072-804-2547

<http://www.kmu.ac.jp/>

E-mail: kmuinfo@hirakata.kmu.ac.jp

平成27年5月15日(金)発行